食農総合研究所研究成果　第１号

和歌山県への移住者の実態と受入協議会の課題

（和歌山県への移住に関するアンケート調査報告書）

２０１７年３月

和歌山大学　食農総合研究所

食農総合研究所研究成果　第１号

和歌山県への移住者の実態と受入協議会の課題

（和歌山県への移住に関するアンケート調査報告書）

辻　和良・植田　淳子・藤田　武弘

和歌山大学　食農総合研究所

２０１７年

目　次

はじめに ---------- 1

Ⅰ　調査の目的と方法

1　調査目的 ---------- 1
2　調査方法 ---------- 1

Ⅱ　調査結果

1　調査結果の概要 ---------- 2

2　移住者アンケート調査結果 ---------- 3

1)　回答者の属性 ---------- 3
2)　移住した時期について ---------- 4
3)　移住の形態について ---------- 4
4)　移住前に住んでいた都道府県 ---------- 5
5)　移住前の職業について ---------- 6
6)　移住前の住まいの形態について ---------- 7
7)　現在の居住市町村 ---------- 7
8)　現在の職業について ---------- 8
9)　現在の住まいの所有形態について ---------- 9
10）移住先で行っているコミュニティでの活動について ---------- 9
11）移住を考え始めたきっかけについて ---------- 10
12）移住に関する情報収集について ---------- 11
13）現在の居住地を選んだ経緯について ---------- 12
14）和歌山県以外の候補地の有無 ---------- 15
15）移住を決定するまでの期間 ---------- 15
16）現在の居住地を決定するまでの訪問回数 ---------- 16
17）和歌山県を訪問した際の滞在期間 ---------- 17
18）現在の居住地を最終的に選んだ理由 ---------- 18
19）移住に要した費用 ---------- 19
20）移住前後の収入の変化 ---------- 20
21）移住前後の支出の変化 ---------- 21
22）移住後の生活全般の満足度 ---------- 23
23）移住してよかったことについて ---------- 23
24）移住して困っていることについて ---------- 24

25）移住して驚いていること、意外だったこと ---------- 25
26）移住を検討する際に苦労したこと ---------- 25
27）移住にあたって活用した行政の支援メニュー ---------- 26
28）行政の支援に関する意見 ---------- 27
29）今後の定住に関する意向 ---------- 28
30）移住に関する自由意見 ---------- 30

３ 受入協議会アンケート調査結果

1） 活動地域の人口減少について ---------- 36
2） 活動地域の活気について ---------- 36
3） 活動地域のセールスポイント ---------- 36
4） 協議会活動のきっかけ ---------- 37
5） 協議会の活動経費 ---------- 38
6） 協議会として望んでいる移住者像 ---------- 39
7） 協議会としてのこれまでの活動内容と今後の活動 ---------- 40
8） 相談窓口で提供している情報について ---------- 41
9） 移住者受入で期待する効果について ---------- 42
10）移住者受入の課題 ---------- 43
11）移住者が困っていると考えられること ---------- 44
12）移住者への移住後のフォロー ---------- 45
13）移住促進に関する自治体の支援 ---------- 46
14）受入協議会運営の問題点 ---------- 47
15）移住・定住促進等についての意見 ---------- 48

はじめに

本報告書は、平成 27 年度に観光学部　藤田武弘が代表となって実施された和歌山県過疎対策課との共同研究「平成 27 年度和歌山県への移住に関するアンケート調査」のなかで、藤田武弘（食農総合研究所　副所長)、食農総合研究所　辻和良、植田淳子（当時、食農総合研究所設置準備室）が調査・分析、報告を行った内容をまとめたものである。

Ⅰ　調査の目的と方法

1　調査目的

本調査は、和歌山県への移住者に対して移住の動機や移住後の課題等、また、受入協議会に対して協議会の活動状況や課題等に関したアンケート調査を実施し、和歌山県への移住・交流を促進するための施策展開のための基礎的資料を得ることを目的とする。

2　調査方法

1)移住者アンケート

対象:平成 18 年度から平成 27 年度までに和歌山県内の移住推進市町村へ移住した世帯を対象とした。調査票を配布する対象世帯数は、市町村担当者に確認のうえ決定した。

調査票は平成 28 年 1 月 25 日に推進市町村担当者へ郵送し、市町村担当者から対象世帯へ配布した。郵送にて回収した。

配布数:260　　回収数:112(回収率 43.1%)

※本アンケート調査票の集計には、当時、和歌山大学観光学部地域再生学科 4 回生であった 貫田理紗さんと 3 回生であった平山美和子さんに協力いただいた。

2)受入協議会アンケート

対象:移住推進市町村(18 市町村)に平成 27 年 12 月までに設置された 20 協議会*注を対象とした。市町村および協議会名は下記のとおりである。

紀美野町	特定非営利法人きみの定住を支援する会	印南町	印南町移住推進協議会
かつらぎ町	新城地区定住推進協議会	日高川町	ゆめ倶楽部21
かつらぎ町	四喜の会	田辺市	田辺市定住支援協議会
かつらぎ町	天野の里づくりの会	白浜町	一般社団法人　南紀州交流公社
九度山町	九度山町区長連絡協議会	すさみ町	すさみ町受入協議会
高野町	花坂さくら会	新宮市	熊野川地域森林と川の資源活用ほんもの会
湯浅町	湯浅町まちおこし連絡協議会	那智勝浦町	色川地域振興推進委員会
広川町	広川町移住者受入協議会	古座川町	古座川町産業振興委員会
有田川町	安諦地区田舎暮らし支援協議会	北山村	北山村受入協議会
由良町	由良町受入協議会	串本町	串本町移住交流推進協議会

回答者は協議会会長(副会長)、または移住促進市町村のワンストップパーソンである。調査票は平成 28 年 1 月 25 日に推進市町村担当者へ郵送し配布した。回答後、郵送にて回収した。調査票回収後の 2 月～3 月にかけて、辻、植田が推進市町村役場等で受入協議会会長、ワンストップパーソンに対して面接調査を行い、回答内容の詳細について確認を行った。

回答数:20

注: 新宮市高田移住定住促進協議会は平成 27 年 12 月末までに設置されていたが、今回の調査からは除いている。

Ⅱ　調査結果

1　調査結果の概要

(1) 移住者アンケート

1) 移住前に住んでいた住居を処分している移住者が多く、前の住居と現在の住居を行き来する二地域居住は平成 25 年度の前回調査に比べて減少していた。

2) 移住後の世帯主の職業は、現役世代では「自営業、個人事業」「農林水産業」等が多く、定年後世代では「年金生活」が中心となっていた。

3) 移住先の情報収集には、行政の相談窓口を最もよく利用しているが、インターネットや現地体験会、フェア等からも情報を得ていた。現在の居住地を決定した経緯として、「行政の相談窓口を利用」し、ワンストップパーソンからの紹介等で「住まいをみつけた」ことがあげられていた。

4) 移住を決定するまでの期間は平成 25 年度調査に比べて短期化しており、移住先の訪問回数が減少し、「1 泊 2 日から 1 週間程度までの短期滞在」が増加していた。受入側の制度や施設が充実したことによるものと思われる。

5) 移住後の生活全般の満足度は「満足」「やや満足」との回答が 70.1%を占めた。移住してよかったこととして、生活面や健康面での充実に関する項目が多くあげられた。

6) 今後の予定について、「定住するつもりだ」が 64%を占めた。「定住しない」、「定住するかわからない」は、それぞれ 27%、9%であった。

(2) 受入協議会アンケート

1) 受入協議会設立の契機は「深刻な人口減少」であり、それに伴う「地域活動の衰退」や「空き家の増加」等にある。

2) 協議会として望む移住者像は「地域の人や習慣になじめる人」、「年齢の若い人」等で地域の将来を担う人材を求めている。

3) 協議会としてこれまでの活動内容で主なものは「移住希望者の相談窓口」「空き家紹介」「行政支援メニュー紹介」等で、今後もこれらの活動の充実を目指している。

4) 移住者の受入で期待する効果は、「地域に活気が生まれる」「人口減少に歯止めがかかる」等であり、移住者が自治会・消防団等の地域活動や農林業等の新たな担い手となることも期待されている。

5) 移住者受入の課題は、「仕事がない」「空き家の確保困難」であり、仕事と住まいの確保が大きな問題となっている。また、地元住民と移住者の衝突に関することも課題となっている。

6) 受入協議会運営の問題点として、地域の人口減少に対する地元住民の危機感や意識が低く、協議会活動が役員等の特定人物に集中していたり、行政に頼りきりになっていることが指摘されていた。これから先の移住者受入に関して、地元住民と行政の連携のあり方について再度検討することが必要であるといえる。

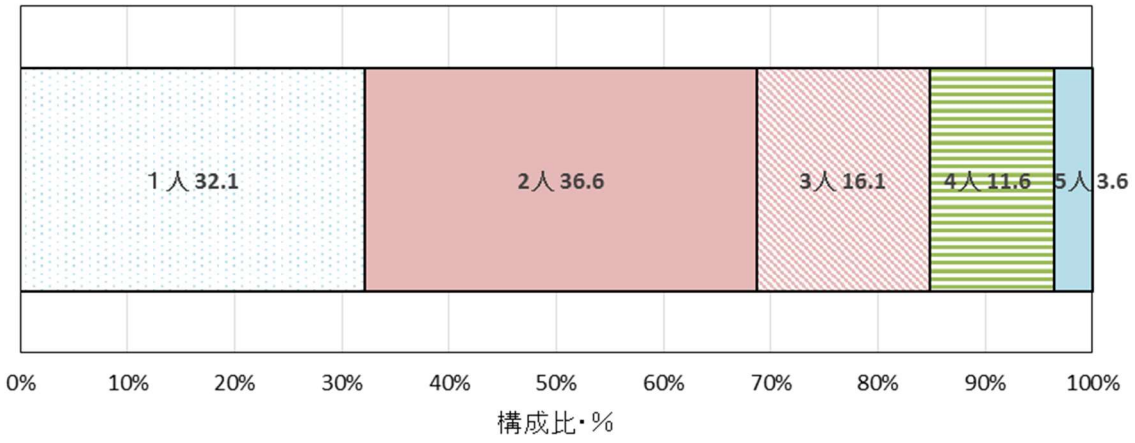
２　移住者アンケート調査結果

1）回答者の属性

本調査の回答者は世帯主で、男性 100 人(89.3%)、女性 12 人(10.7%)から回答を得た。

世帯員数は「1 人」が 32.1%、「2 人」(夫婦)が 36.6%、「3 人～5 人」の子供のいる世帯が 31.3%であった。

図1　世帯員数



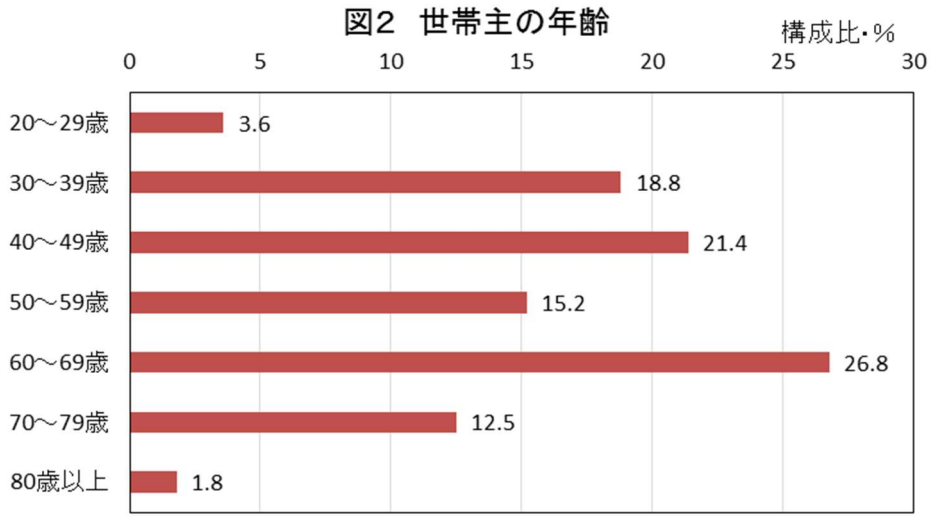
注)回答数 112

図中の数値は構成比を示す。

世帯主の年齢をみると、60 歳までの現役世代が 66 世帯で 58.9%を占めている。

60 歳以上の定年後世代が 41.1%を占めた。「60 歳～69 歳」が最も多く 26.8%を占めており、平均年齢は 53.1 歳であった。

図2　世帯主の年齢

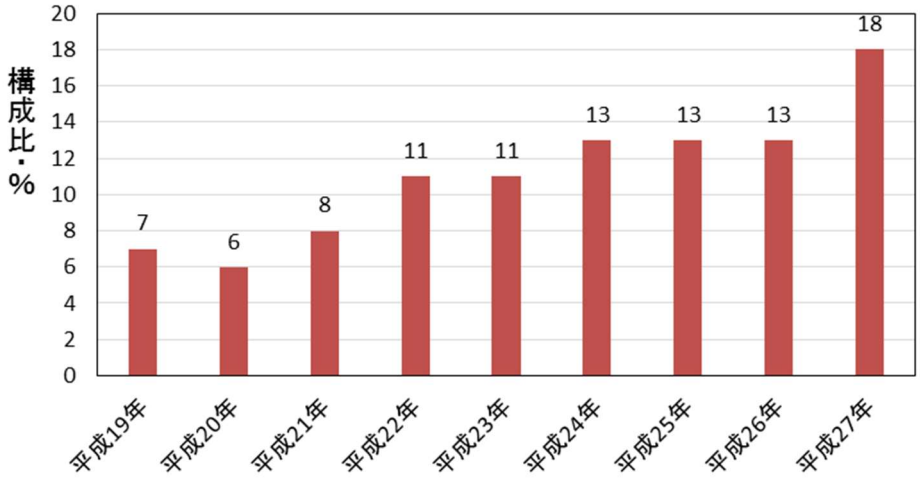


注)回答数 112

2）移住した時期について

回答があったそれぞれの世帯が移住した時期は図３に示すとおりで、和歌山県に移住し定住した世帯数は年々増加している。平成 27 年は 18 世帯と最も多い。

図3　移住した時期

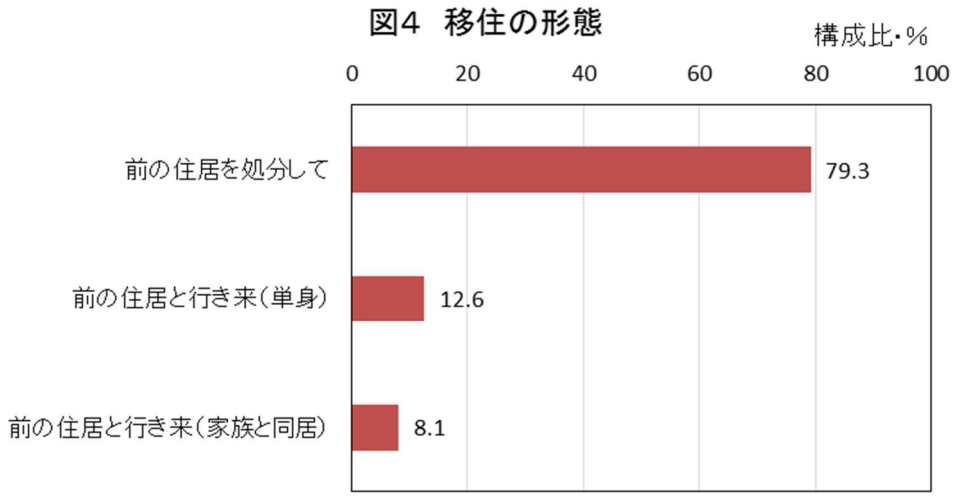


注）回答数 100

3）移住の形態について

移住者の移住形態は、「前の家を処分して」移住している世帯が最も多く 79.3%を占めた。「前の住居と行き来」する二地域居住の移住者は 20.7%で、前回調査（平成 25 年度、37.6%）に比べて減少している。

図4　移住の形態

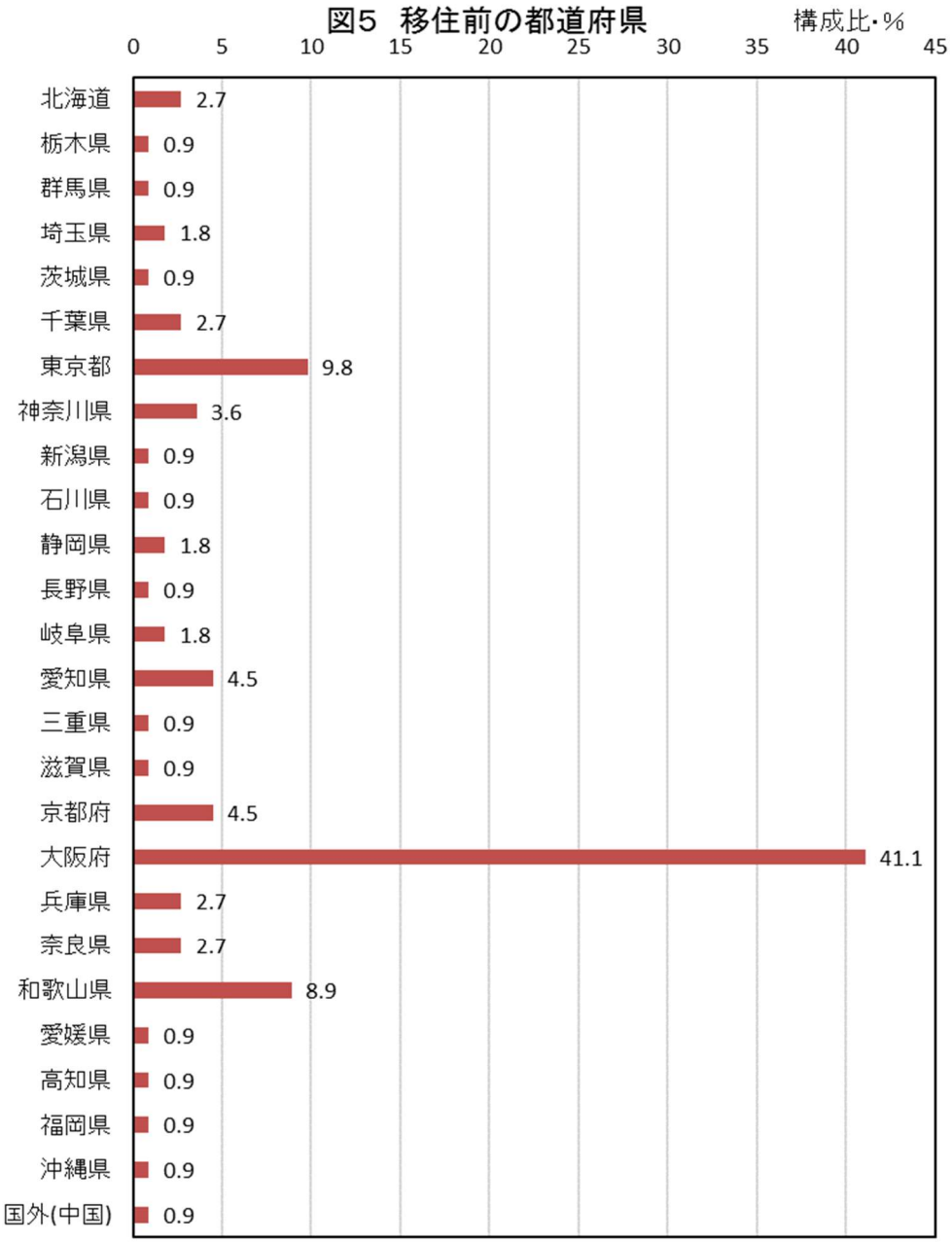


注）回答数 111

4）移住前に住んでいた都道府県

移住者が和歌山県へ移住する前に居住していた都道府県は図５のとおりである。北海道から沖縄県まで、遠くは中国からの移住もみられる。

移住前の都道府県の内訳をみると、大阪府からの移住者が最も多く 41.1％を占めており、和歌山県内 8.9％を含む近畿圏からの移住者が 60.7％を占めた。また、東京都 9.8％を含む関東圏からの移住が 20.5％を占めた。



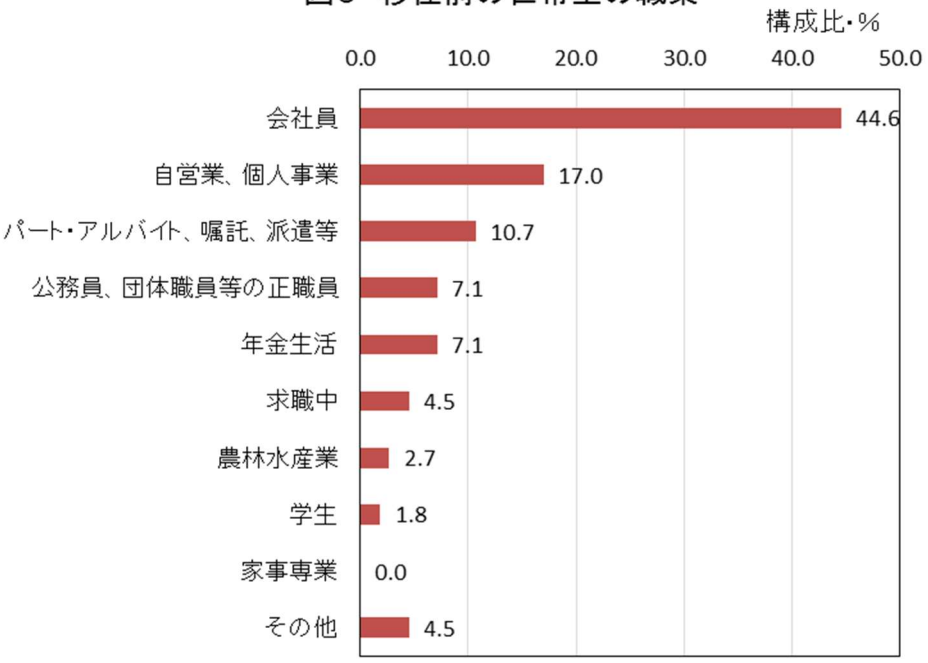
注）回答数 112

和歌山県では移住促進の取組を始めた当初、和歌山県内から移住推進市町村へ移住した場合も「移住者」として計上していた。

5）移住前の職業について

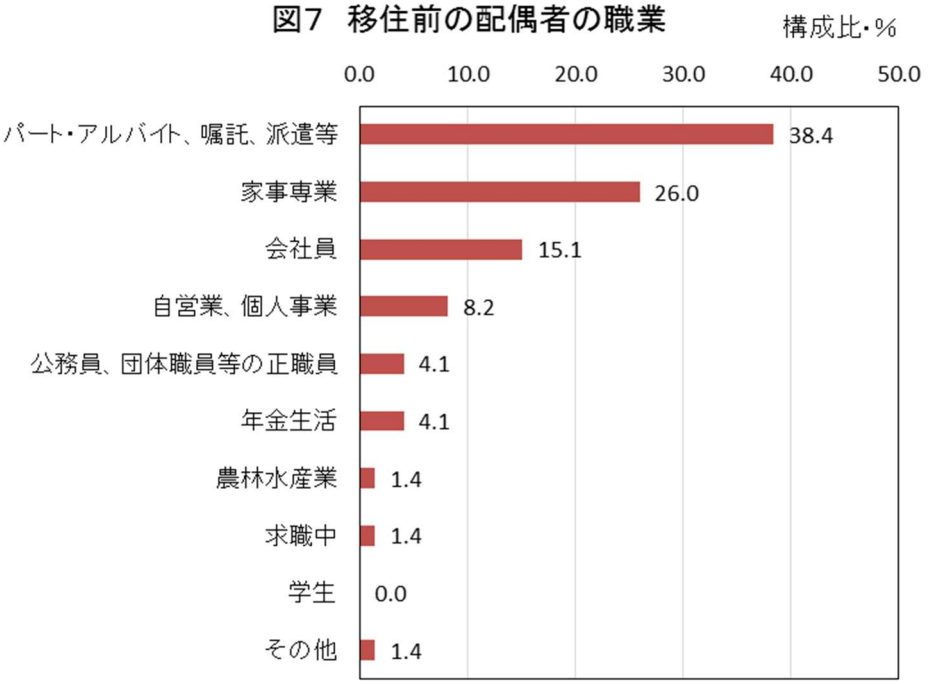
移住者の世帯主が移住前に従事していた職業は図 6 のとおりである。また、移住前に配偶者が従事していた職業は図 7 のとおりである。

図6　移住前の世帯主の職業



注）回答数 112

図7　移住前の配偶者の職業

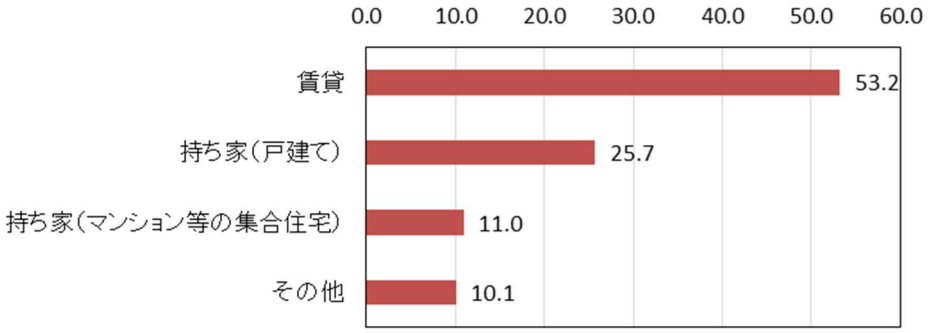


注）回答数 73

6）移住前の住まいの形態について

移住前の住まいの形態は、賃貸が 53.2%を占めて最も多く、１戸建て、マンション等の持ち家は 36.7%であった。

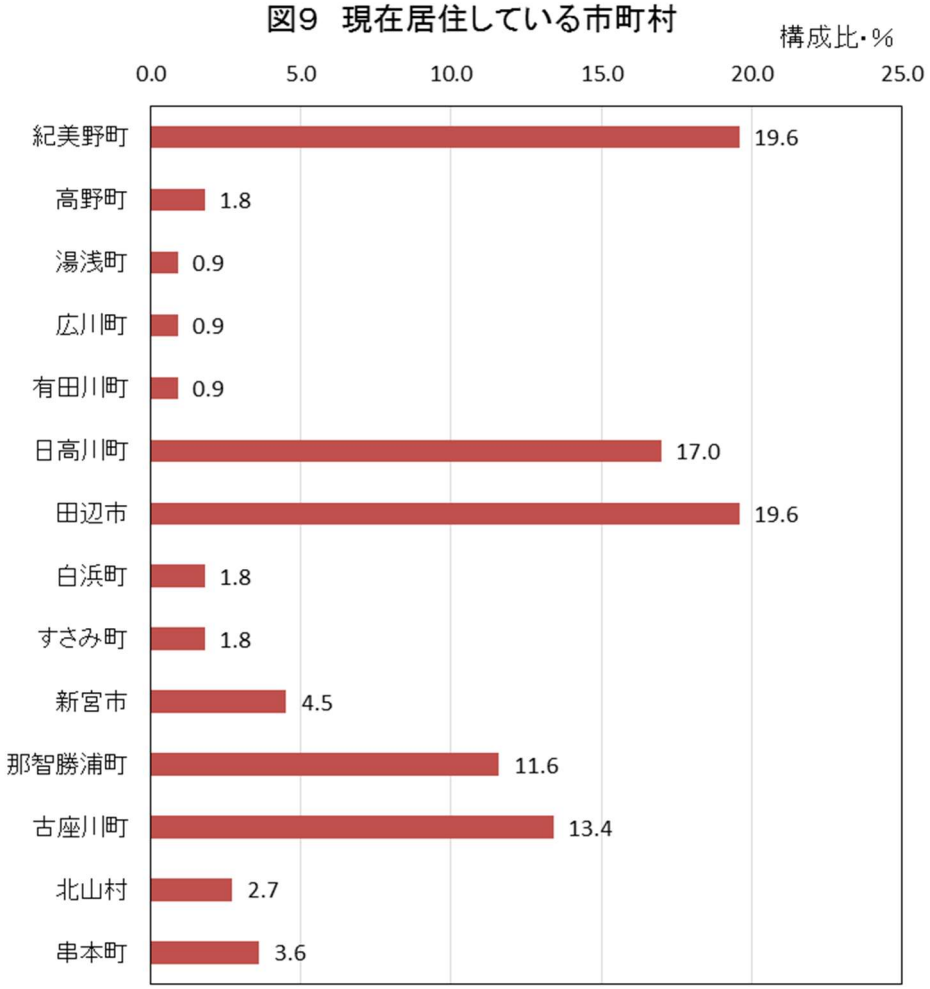
図8　移住前の住まいの形態



注）回答数 109

7）現在の居住市町村

図9　現在居住している市町村



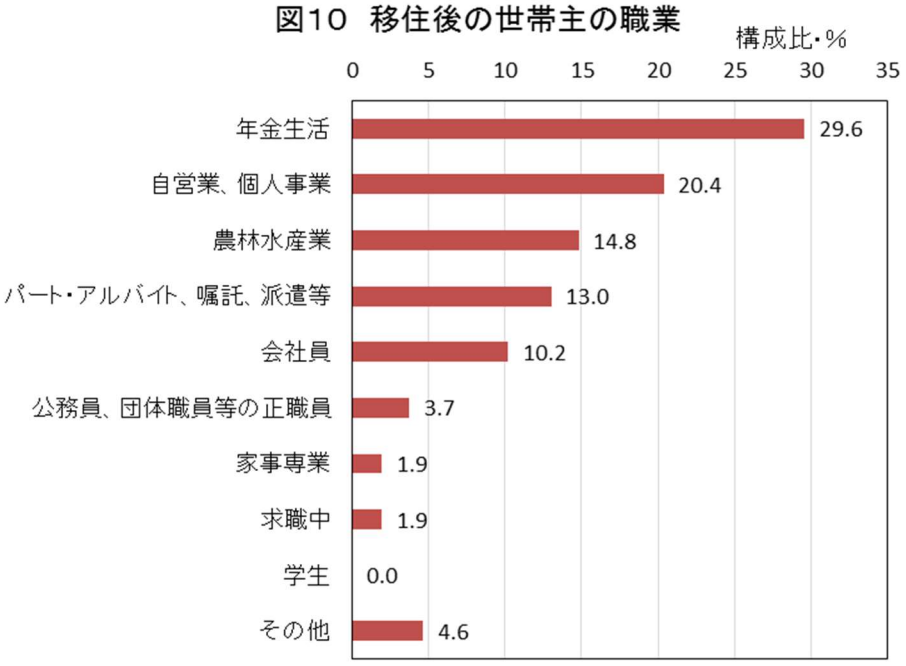
回答のあった移住先市町村は図９のとおりで、紀美野町、田辺市が最も多く、次いで日高川町、古座川町、那智勝浦町の順であった。

注）回答数 112

8）現在の職業について

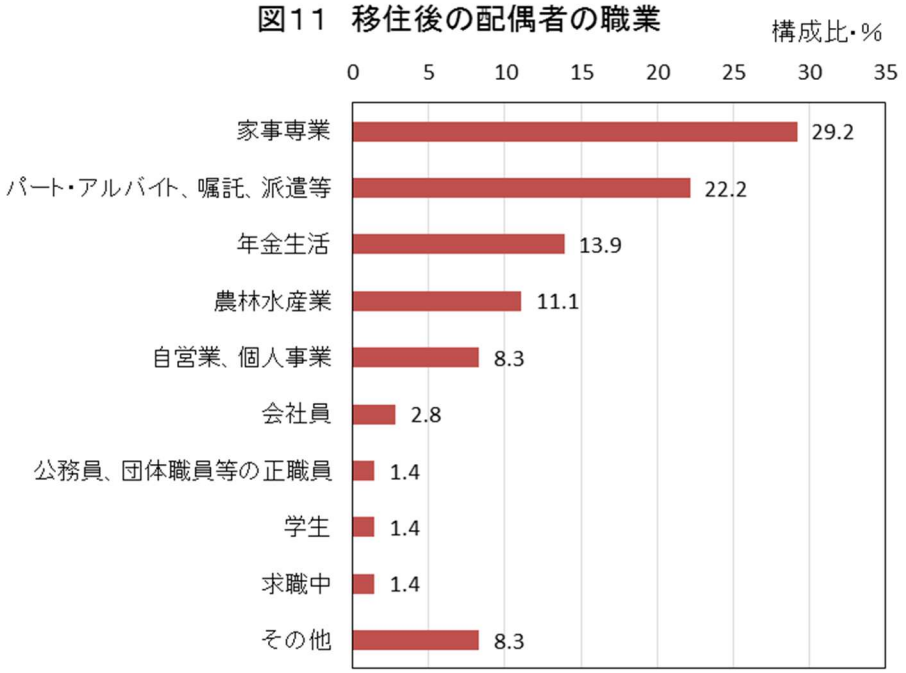
世帯主の移住後の職業は、「年金生活」が最も多く、次いで「自営業、個人事業」「農林水産業」「パート・アルバイト、嘱託、派遣等」「会社員」の順であった。60 歳までの現役世代では「自営業、個人事業」「農林水産業」等が、定年後の移住者は「年金生活」が中心となっていると考えられる。また、配偶者では「家事専業」「パート・アルバイト、嘱託、派遣等」「年金生活」「農林水産業」等があげられた。

図10　移住後の世帯主の職業



注）回答数 108

図11　移住後の配偶者の職業

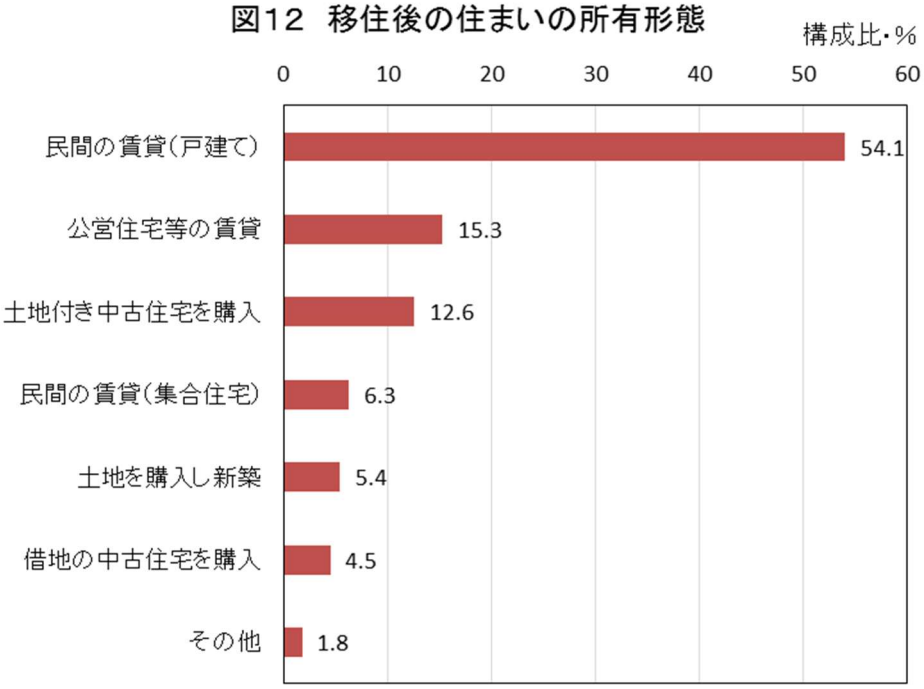


注）回答数 72

9）現在の住まいの所有形態について

民間の賃貸が１戸建て、集合住宅を合わせて 60.4%を占めており、前回調査(平成 25 年度、40.0%)に比べて増加している。公営住宅等の賃貸が 15.3%と前回調査 25.9%に比べて減少している。

図12　移住後の住まいの所有形態

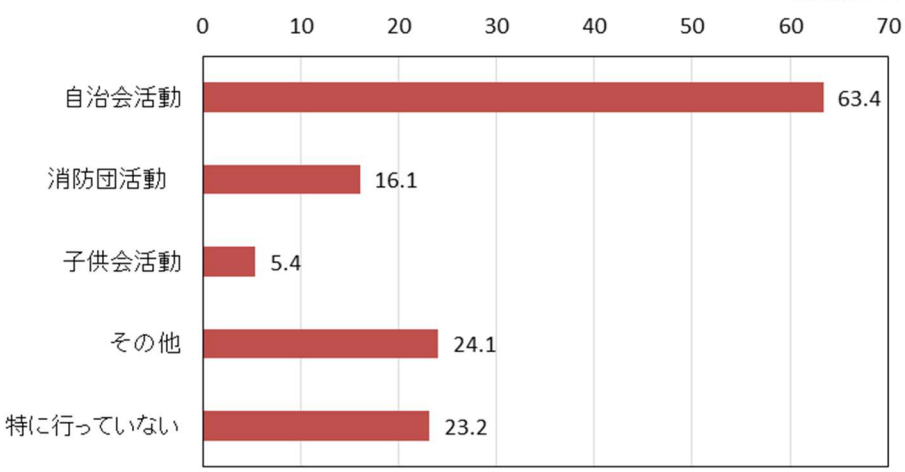


注)回答数 111

10）　移住先で行っているコミュニティでの活動について

移住先で行っているコミュニティでの活動は「自治会活動」が最も多く 63.4%を占めた。次いで多いのは、「消防団活動」であった。その他として多くあげられたのは、「青年会」や「老人会」、「ボランティアサークル」などであった。

図13　移住先で行っているコミュニティでの活動



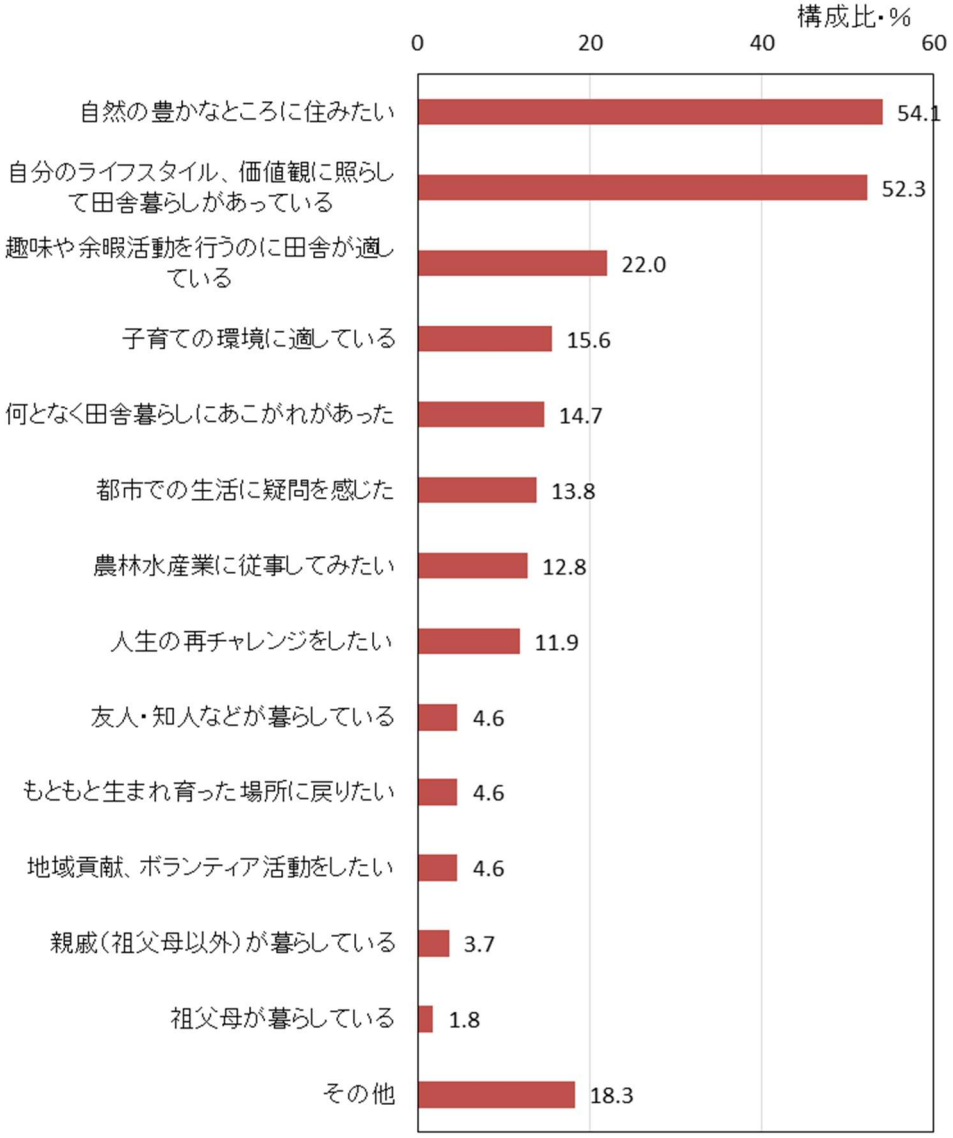
注)回答数 112

しかし、「特に行っていない」が 23.2%を占めており、その理由として「地域にとけ込めない」「仕事もみつからず余裕がない」といった意見もみられた。

11） 移住を考え始めたきっかけについて

移住のきっかけとなったのは、「自然の豊かなところに住みたい」が 54.1%と多く、次いで「自分のライフスタイル、価値観に照らして田舎暮らしがあっている」(52.3%)、「趣味や余暇活動を行うのに田舎が適している」(22.0%)、「子育ての環境に適している」(15.6)等があげられた。自分のライフスタイルや価値観を重視する人が増えていることがうかがえる。

図14 移住を始めたきっかけ



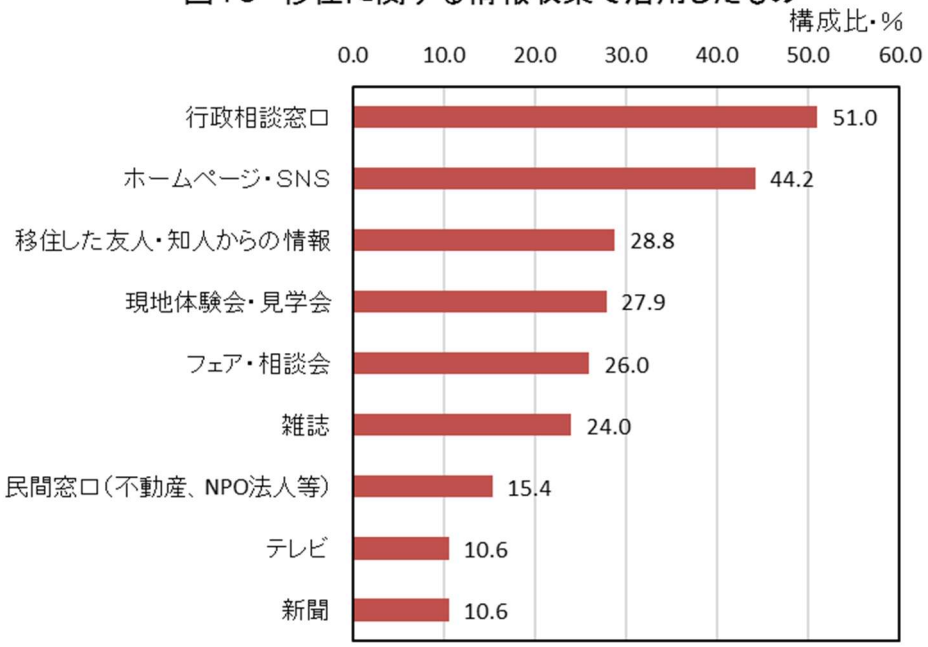
注)回答数 108

3 つまでの複数回答

12) 移住に関する情報収集について

移住に関する情報は「行政相談窓口」を利用しての収集が最も多く 51.0%を占めた。次いで多かったのは、インターネット上の「ホームページ・SNS」利用が 44.2%、「移住した友人・知人からの情報」28.8%、「現地体験会・見学会」27.9%、「フェア・相談会」26.0%の順であった。

図15 移住に関する情報収集で活用したもの

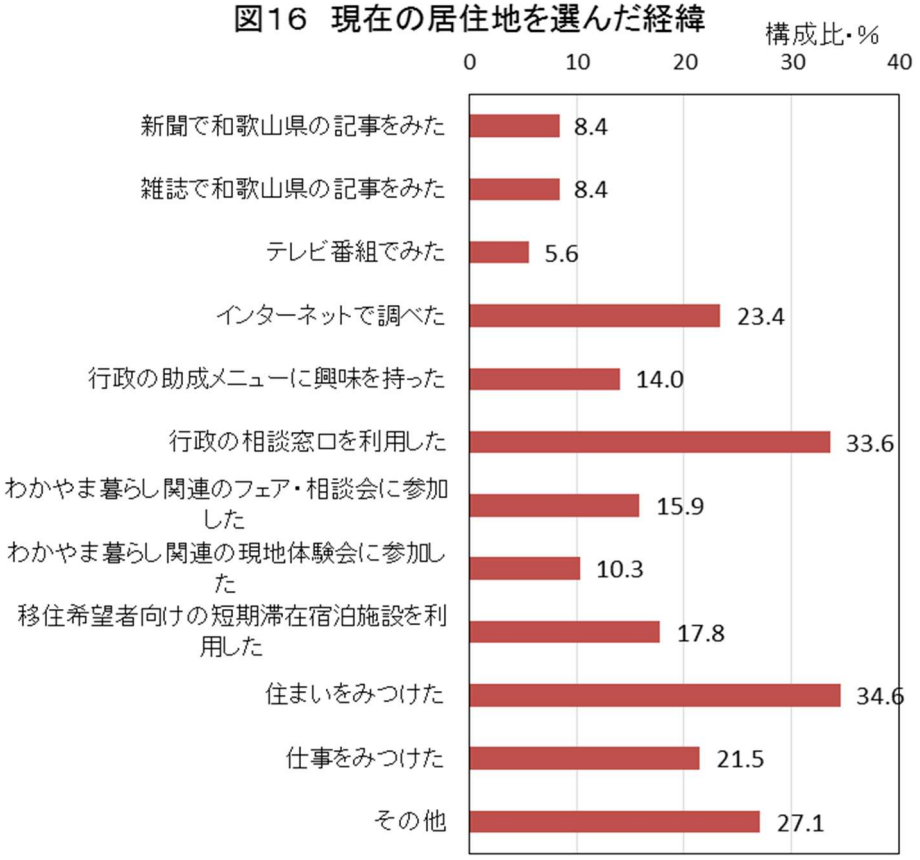


注)回答数 104、複数回答

13) 現在の居住地を選んだ経緯について

現在の居住地を選んだ経緯については、「住まいをみつけた」34.6%、「行政の相談窓口を利用した」33.6%の二つが高く、居住地を選定するのには行政に相談し住まいをみつけたことが大きな要因となっていることがうかがえる。また、次いで多いのは、「インターネットで調べた」「仕事をみつけた」「移住希望者向けの短期滞在宿泊施設を利用した」であった。仕事をみつけられたことも居住地決定の大きな要因となっている。

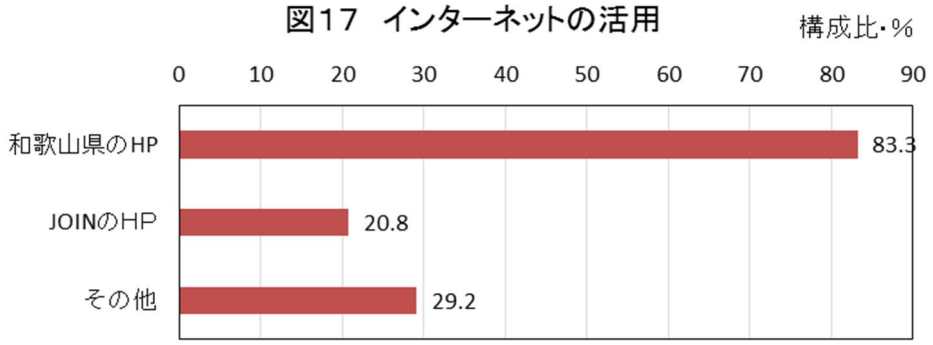
図16　現在の居住地を選んだ経緯



注)回答数 107、複数回答

インターネットの利用(回答者 24 人)では和歌山県のＨＰを利用したとの回答が多かった。その他として、移住先として検討している地域や市町村のＨＰも利用したと回答していた。

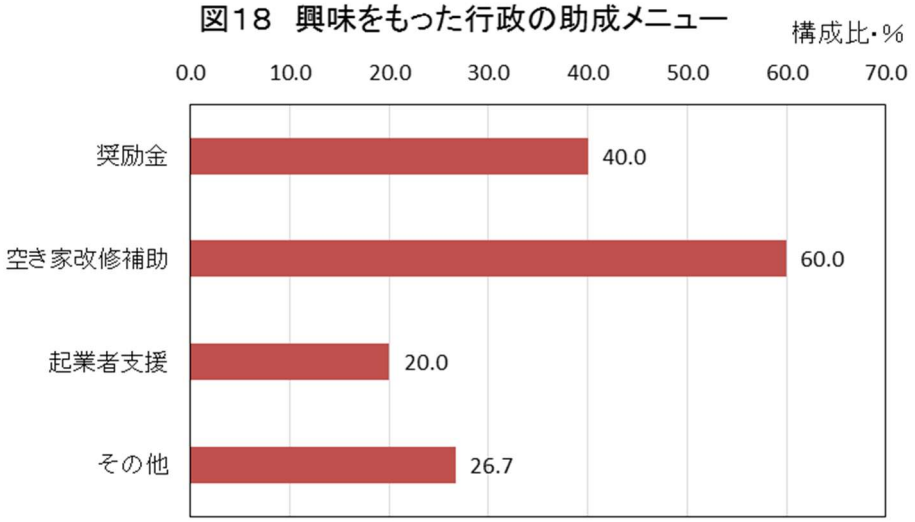
図17　インターネットの活用



注)回答数 24、複数回答
JOIN: 一般社団法人移住・交流推進機構

興味をもった行政の支援メニューでは、「空き家改修補助」が 60%を占め回答が最も多かった。次いで、「奨励金」「起業者支援」の順であった。

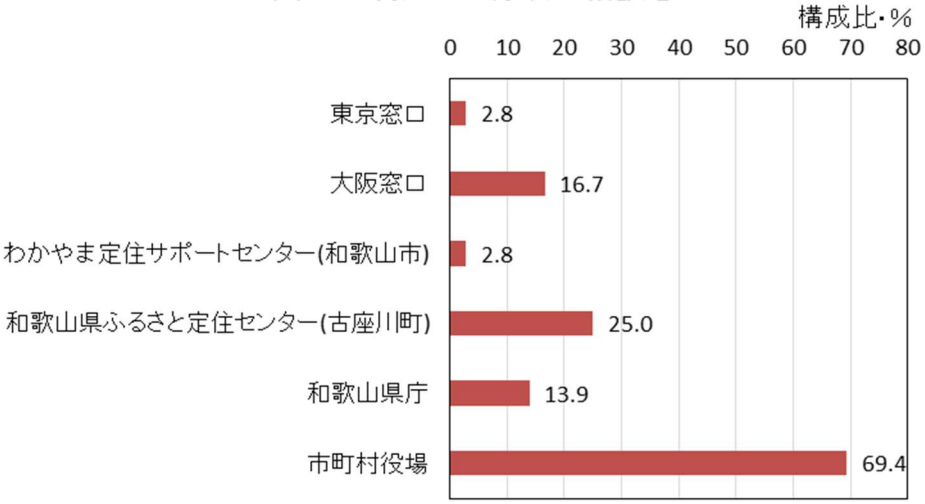
図18　興味をもった行政の助成メニュー



注)回答数 15、複数回答

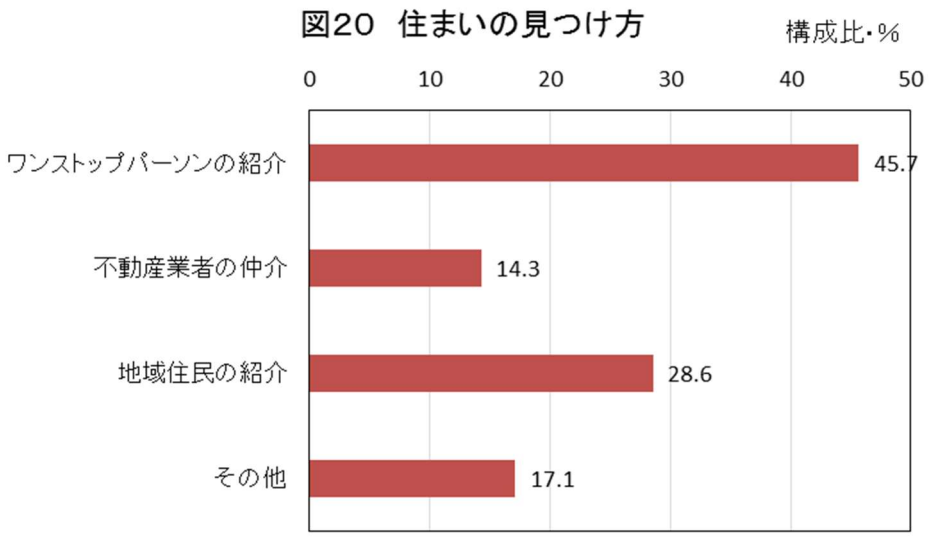
利用した行政の相談窓口は「市町村役場」(69.4%)が最も多く、次いで「和歌山県ふるさと定住センター(古座川町)」(25.0%)、「大阪窓口」(16.7%)、「和歌山県庁」(13.9%)の順であった。

図19　利用した行政の相談窓口



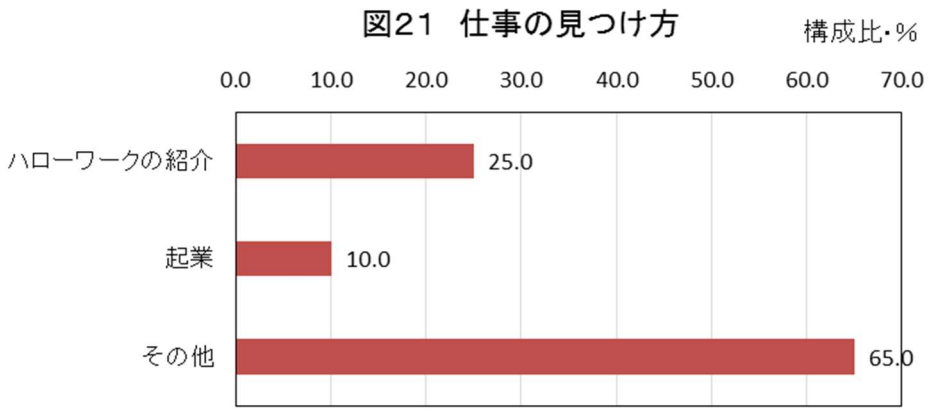
注)回答数 36、複数回答

現在の住まいをみつけたのは、市町村役場の「ワンストップパーソンの紹介」が 45.7%と最も多く、次いで、「地域住民の紹介」28.6%、「不動産業者の仲介」14.3%であった。



注)回答数 35、複数回答

田舎で仕事をみつけることは大変難しい。仕事を「ハローワークの紹介」でみつけたとの回答は 25%であった。その他でみられたのは「知人からの紹介」等であった。

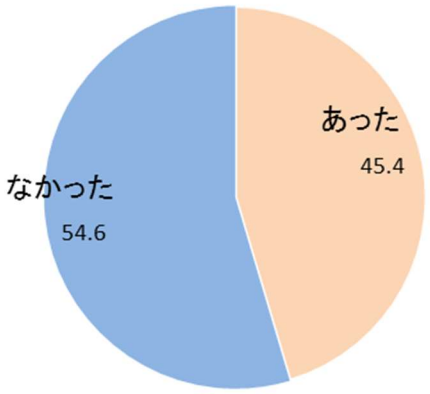


注)回答数 20、複数回答

14） 和歌山県以外の候補地の有無

和歌山県以外の候補地については、「和歌山以外になかった」が 54.6%と高く、半数以上の方が和歌山県を移住候補地として移住している結果となった。

図22 和歌山県以外の移住候補地の有無

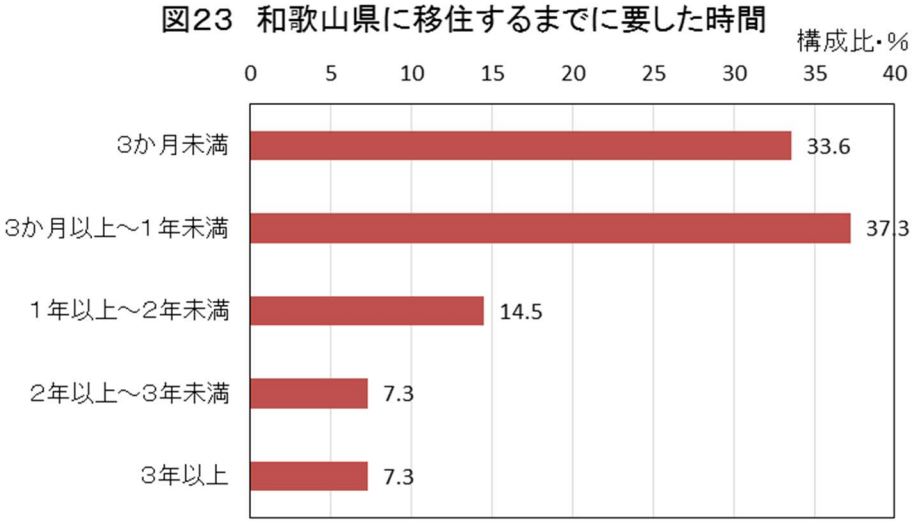


注）回答数 108

15） 移住を決定するまでの期間

移住を決定するまでに要した期間は、1 年までが 70.9%を占めており、前回調査（平成 25 年度 53.0%）に比べて増加している。前回調査では 1 年以上かけて移住した割合が 42.4%を占めていたが、今回の調査では 29.1%となっており、移住決定までの期間が短期化していると考えられる。

図23 和歌山県に移住するまでに要した時間



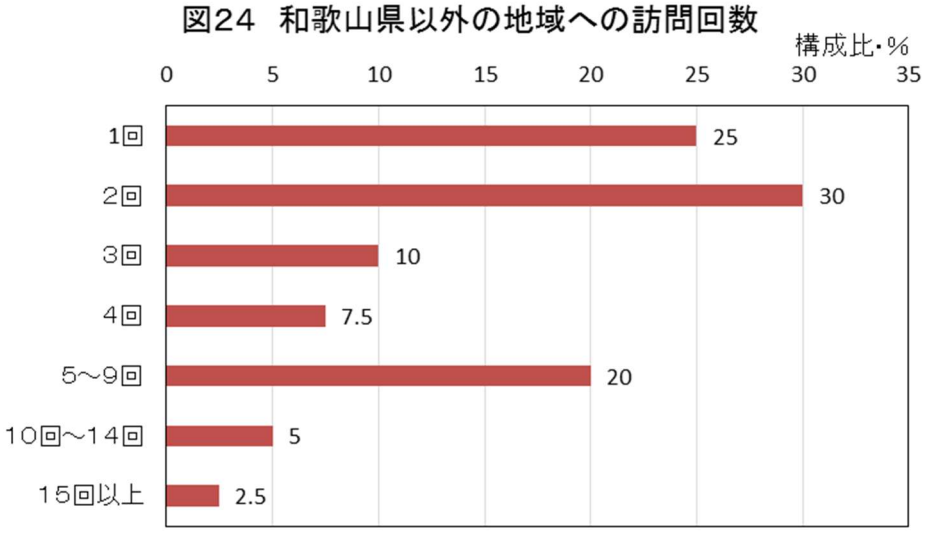
注）回答数 100

16) 現在の居住地を決定するまでの訪問回数

多くの移住者は、移住を決定するまでに県外や現在の居住地以外の県内地域を訪問している。県外へは 40 人の回答者が、県内の他地域へは 42 人が訪れた回数を回答しており、どちらも「2 回」までが多い。

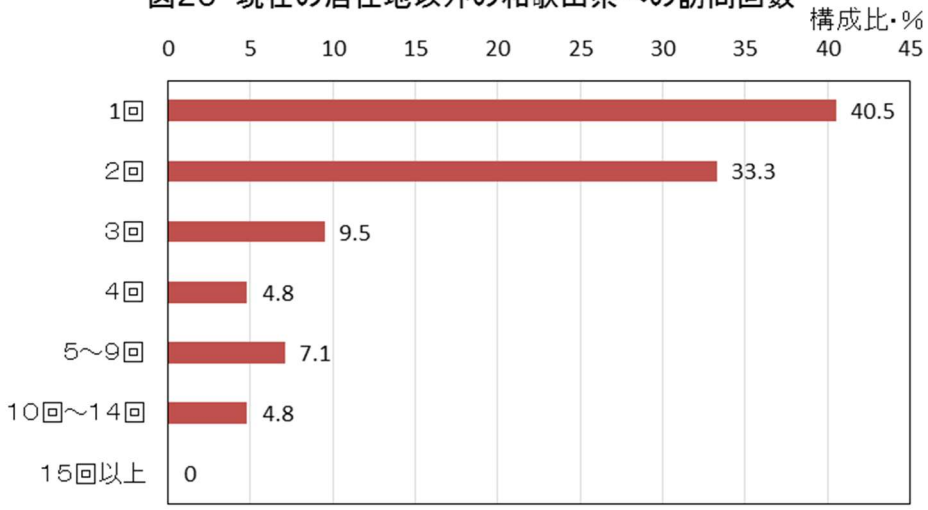
現在の居住地への訪問回数は「1 回」が最も多く、次いで「3 回」「2 回」と数回訪れた人が多かった。前回調査(平成 25 年度)では 10 回以上が最も多かったことを考えると、訪問回数も減少し、移住決定までが短期化していることがうかがえる。

図24 和歌山県以外の地域への訪問回数

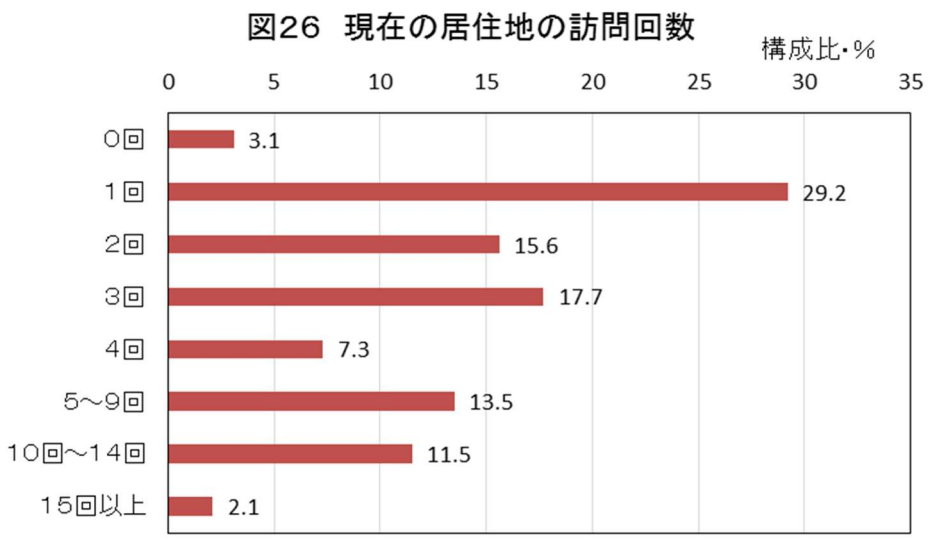


注)回答数 40

図25 現在の居住地以外の和歌山県への訪問回数



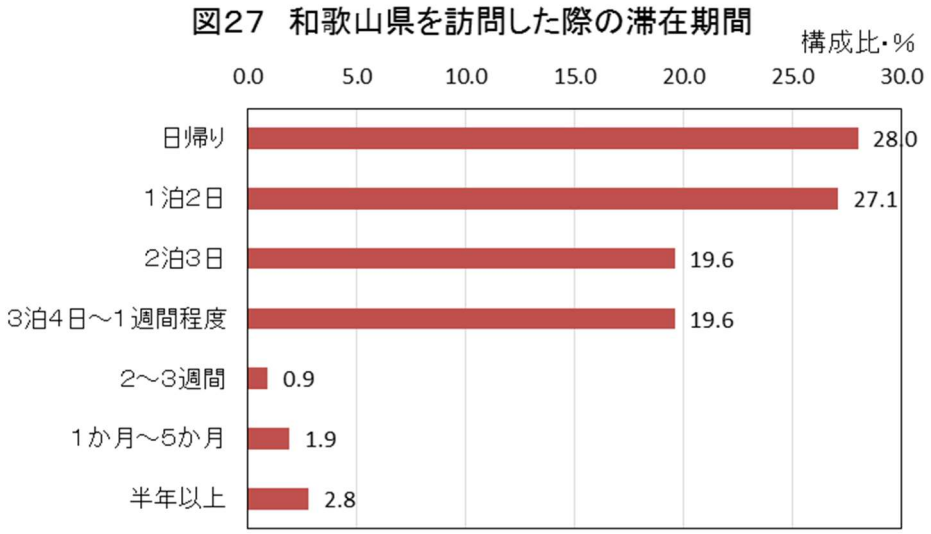
注)回答数 42



注）回答数 96

17） 和歌山県を訪問した際の滞在期間

現地を訪問した際に滞在する期間は「日帰り」が 28.0%と最も多く、次いで「1 泊 2 日」27.1%、「2 泊 3 日」19.6%など、1 週間までの回答がほとんどである。前回調査（平成 25 年度）に比べて 1 泊 2 日から 1 週間程度までの短期滞在が増加している。受入側の制度や施設が充実したことによるものと思われる。

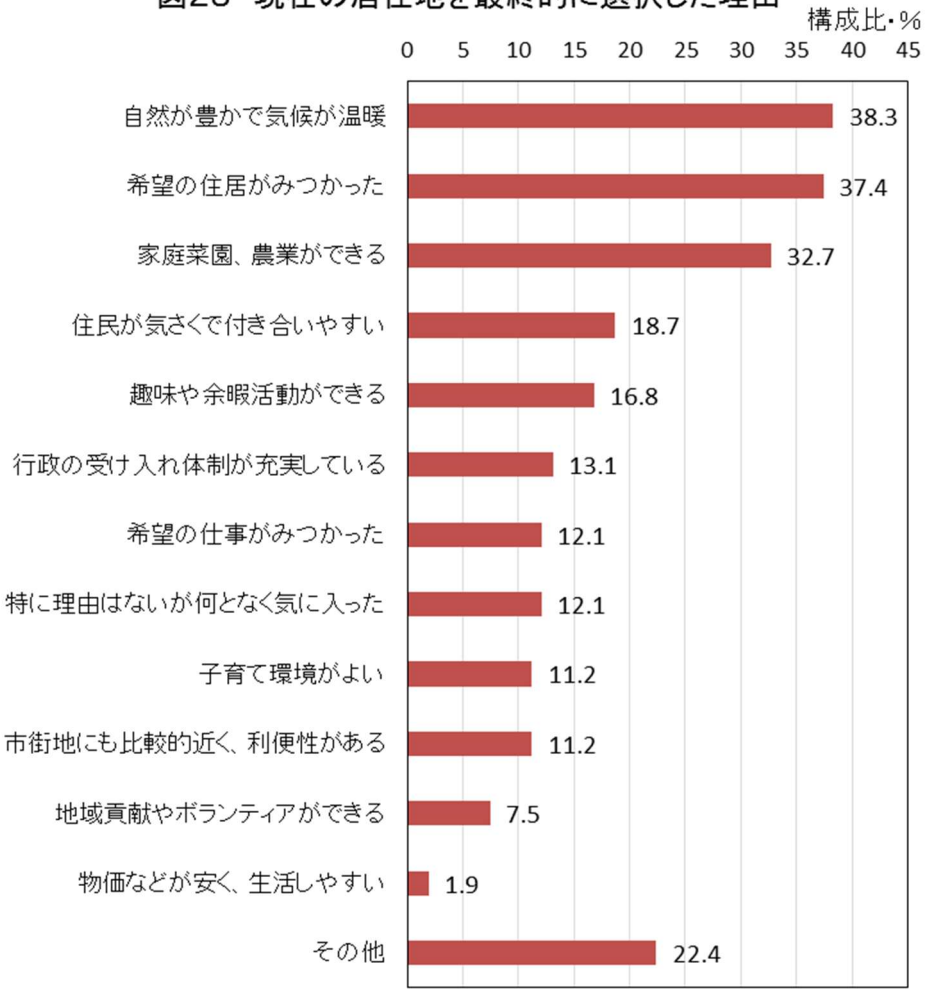


注）回答数 107

18） 現在の居住地を最終的に選んだ理由

現在の居住地を選んだ理由は、「自然が豊かで気候が温暖」38.3%、「希望の住居がみつかった」37.4%、「家庭菜園、農業ができる」32.7%が上位を占めた。これらに次いで、「住民が気さくで付き合いやすい」18.7%があげられており、地元住民との交流がうまくいったことが大きな要因となっていることがうかがえる。「その他」の回答が多くあげられたが主なものは、「出身地のため」「実家に近い」「大阪に近い」「身内がいた」等であった。

図28 現在の居住地を最終的に選択した理由



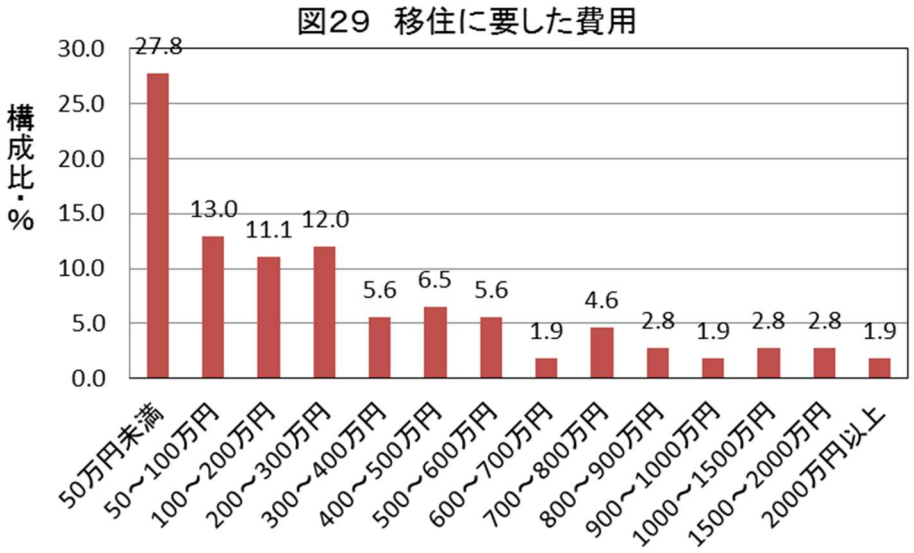
注）回答数 107

3 つまでの複数回答

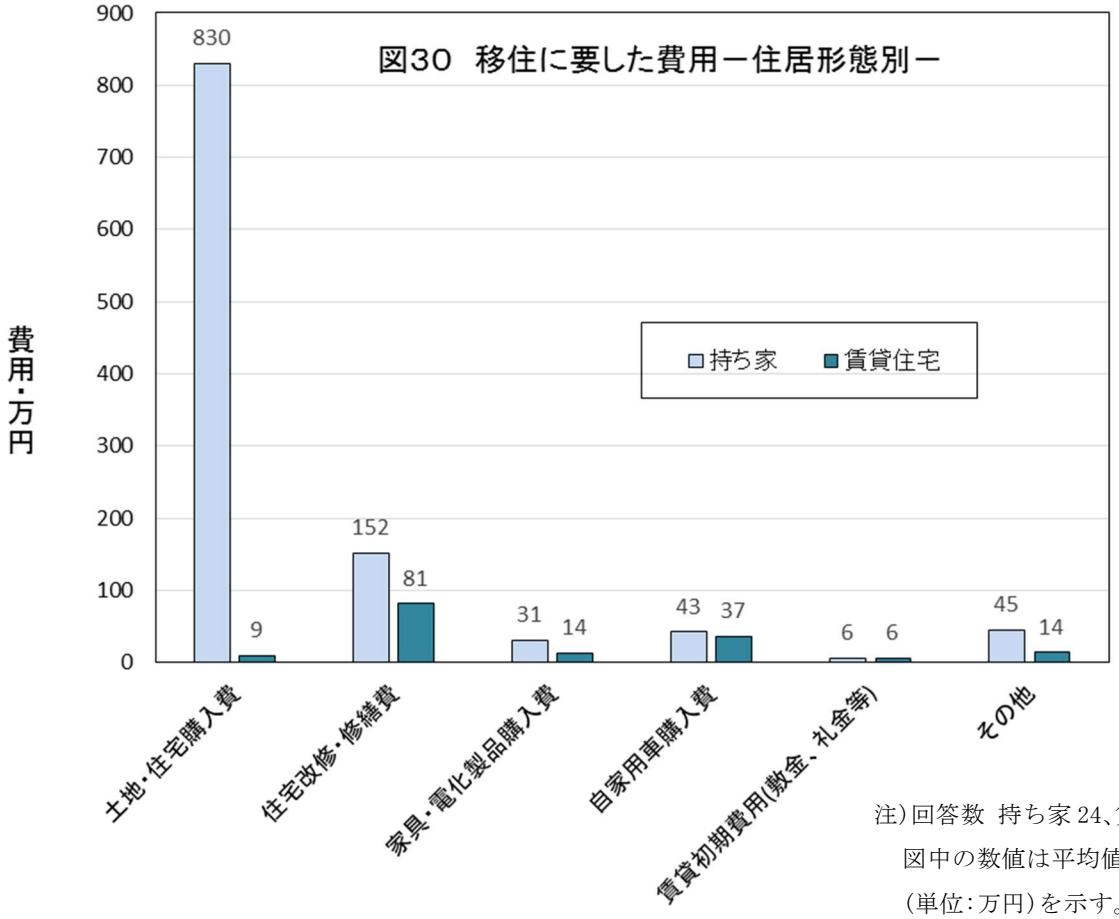
19） 移住に要した費用

移住にかかった費用は平均 373 万円で、「50 万円未満」が 27.8%と最も多く、300 万円までで 63.9%の方が移住している。一方、移住に 1,000 万円以上を要した移住者の比率は 7.4%であった。

住居形態別に移住に要した経費の内訳をみると、持ち家購入では、最も大きいのが「土地・住宅購入費」830 万円、次いで「住宅改修・修繕費」152 万円、「自動車購入費」43 万円等で、合計 1,107 万円を要していた。賃貸住宅では、「住宅改修・修繕費」81.4 万円が最も大きく、次いで「自動車購入費」37 万円、「家具・電化製品購入費」14 万円等で、合計 161 万円を要していた。



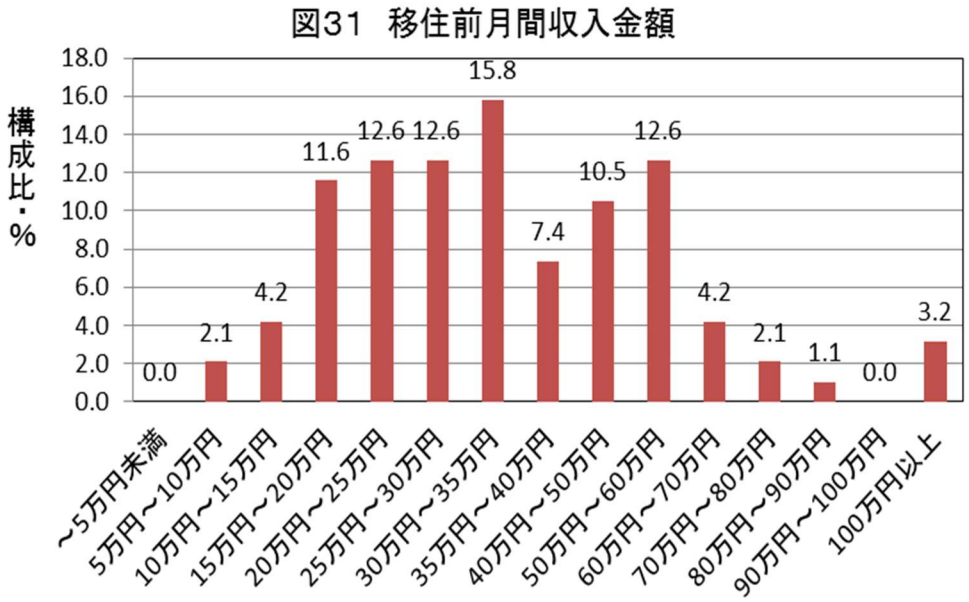
注）回答数 108



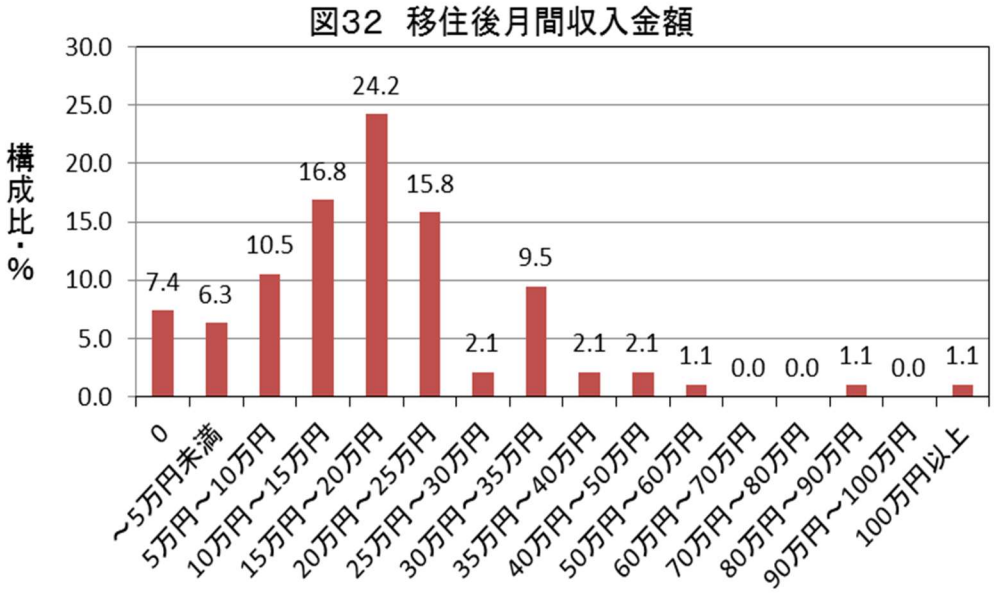
注）回答数 持ち家 24、賃貸 81
図中の数値は平均値
（単位：万円）を示す。

20） 移住前後の収入の変化

移住前後の月間収入金額の変化をみると、移住前は「30 万円～35 万円」が最も多く、平均 36.9 万円であったが、移住後は「15 万円～20 万円」の階級が最も多く、平均 17.7 万円であった。収入金額は約半分に減少している。

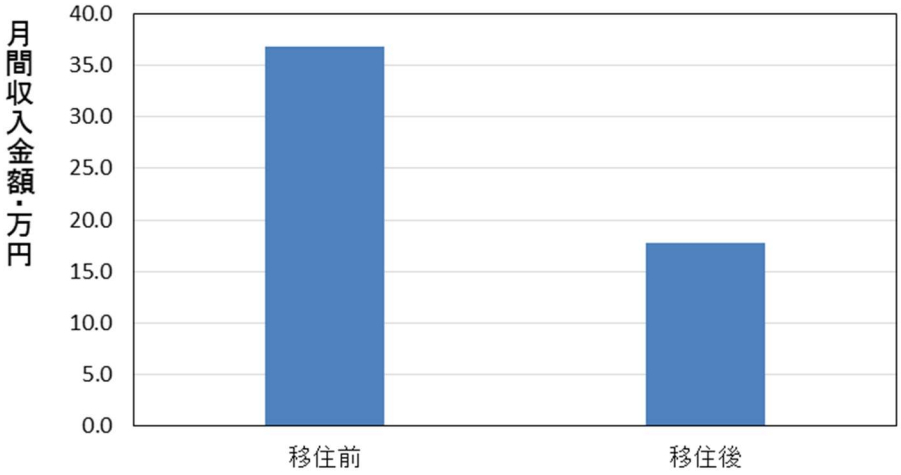


注）回答数 95



注）回答数 95

図33　移住前後の月間収入金額の変化



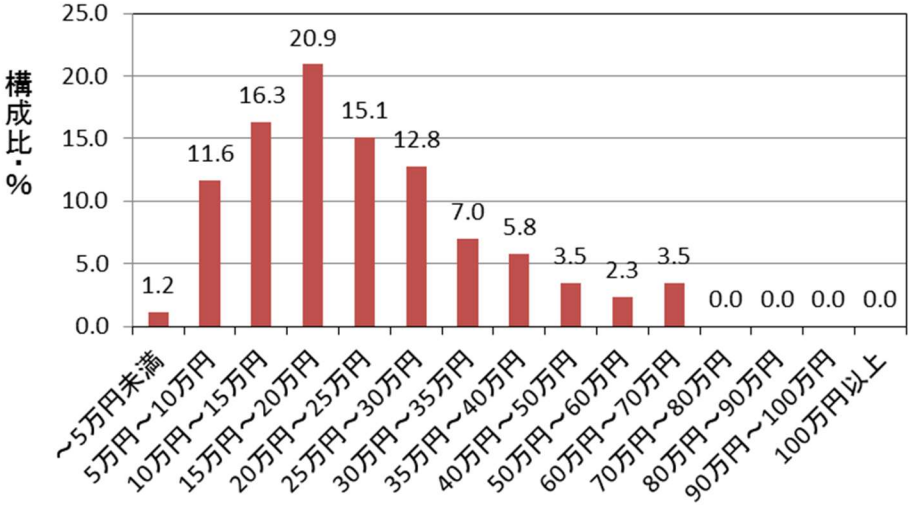
注）回答数 95

平均値を示す。

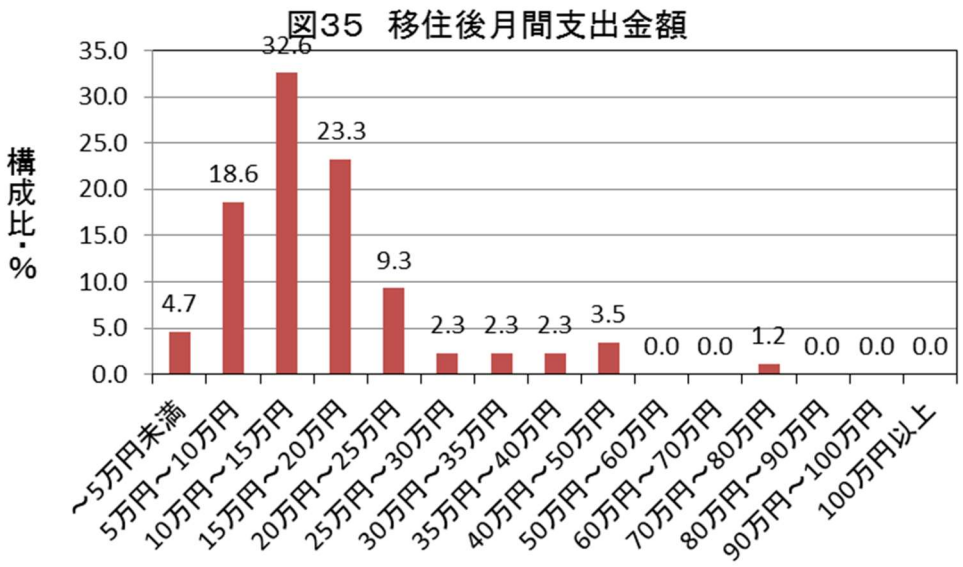
21）移住前後の支出の変化

移住前後の月間支出金額について、移住前は「15 万円～20 万円」との回答が最も多く、平均 22.5 万円であったが、移住後は「10 万円～15 万円」が最も多く、平均 16.3 万円と約 7 割に減少した。月間収入金額と支出金額の差は小さい。

図34　移住前月間支出金額

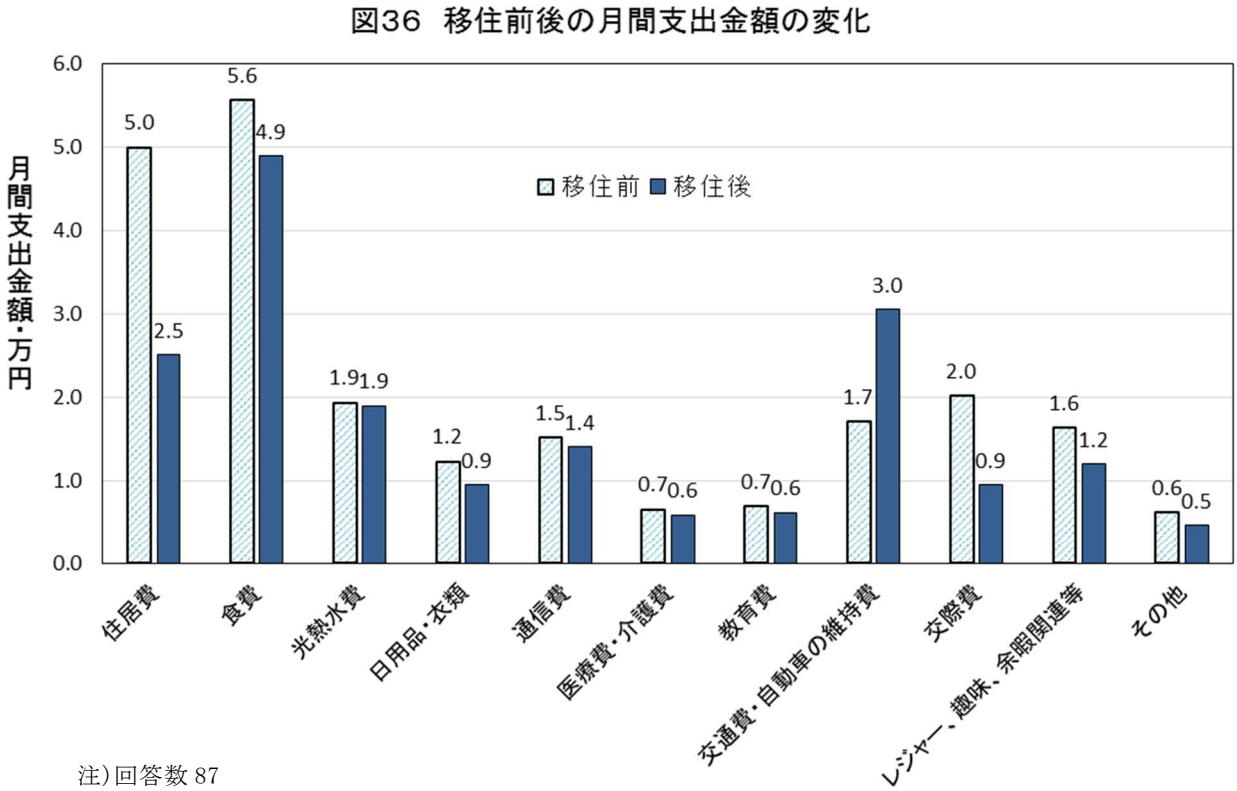


注）回答数 87



注）回答数 87

移住前後の月間支出金額の内訳を比較すると、「住居費」「食費」「交際費」「レジャー・趣味・余暇関連等」の費用が減少し、「交通費・自動車の維持費」が増えている。その結果、移住後の支出の内訳をみると「食費」が最も大きく、次いで「交通費・自動車の維持費」、「住居費」の順となった。



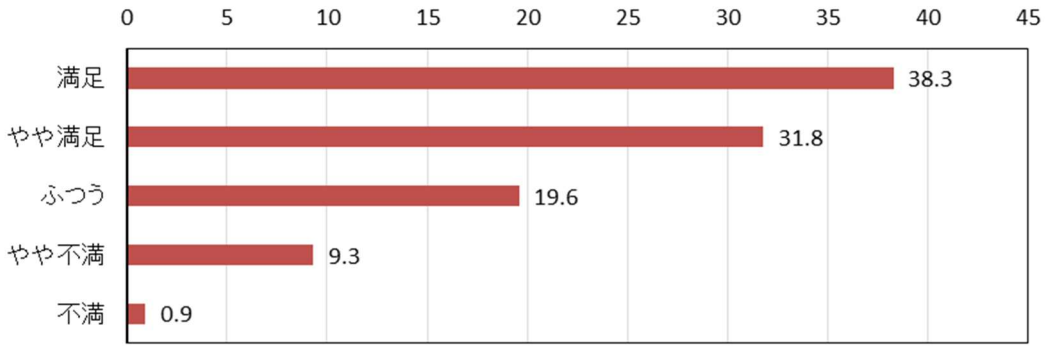
注）回答数 87

平均値を示す。

22） 移住後の生活全般の満足度

移住後の生活全般に対する満足度については、「満足」「やや満足」が 70.1％を占め、大部分の移住者が満足していることがうかがえる。一方、「不満」「やや不満」との回答が約 1 割みられる。

図37　移住後の生活全般に対する満足度合　　構成比・％

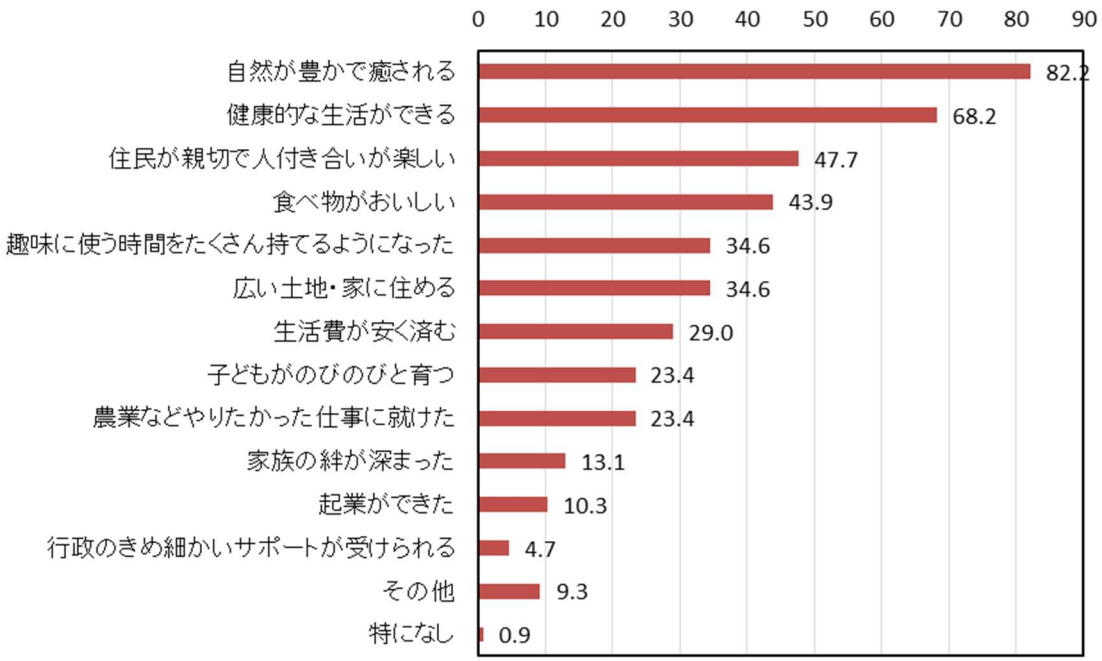


注）回答数 107

23)移住してよかったことについて

移住してよかったことについては、「自然が豊かで癒される」「健康的な生活ができる」「住民が親切で人付き合いが楽しい」「食べ物がおいしい」「趣味に使う時間をたくさん持てるようになった」等の回答が多く、生活面や健康面での充実が、よかったことにつながっていることがうかがえる。

図38　移住してよかったこと　　構成比・％



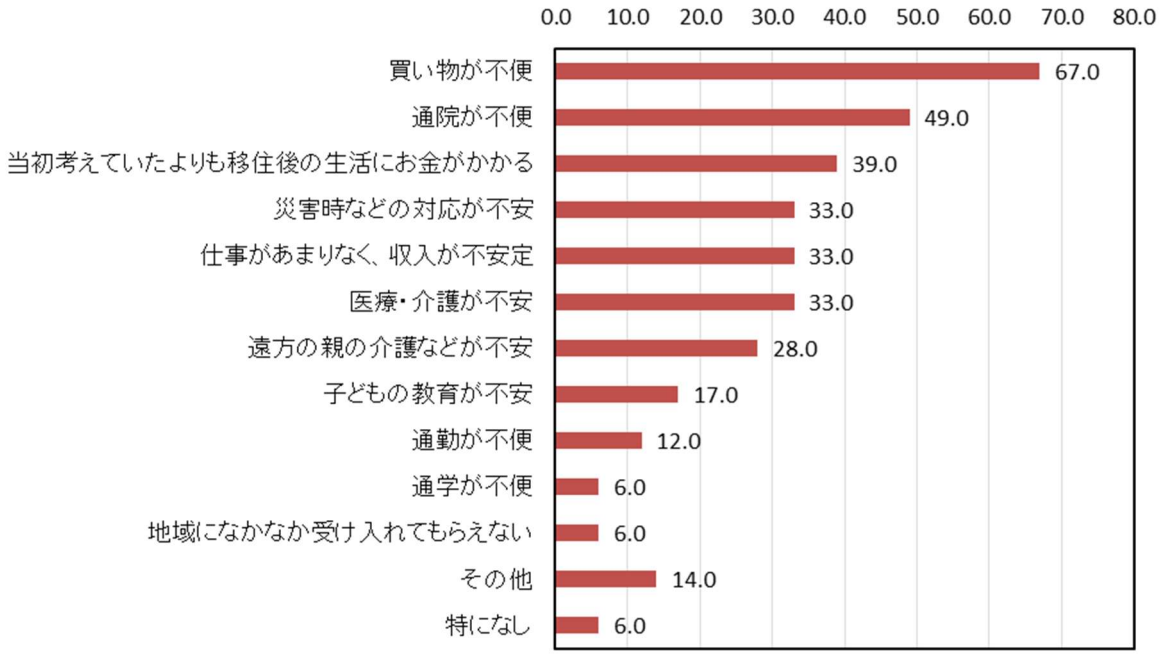
注）回答数 107

上位 5 つまでの複数回答

23） 移住して困っていることについて

移住して困っていることについては、「買い物が不便」が 67.0%を占め、次いで「通院が不便」となっている。また、「当初考えていたよりも移住後の生活にお金がかかる」「災害時などの対応が不安」「仕事があまりなく、収入が不安定」「医療・介護が不安」との回答も上位にあり、移住者にとって生活・健康・経済的不安が「困っていること」の大きな要因となっていることがうかがえる。また、「その他」の意見として、「地域の人間関係が難しい」などがあげられていた。

図39　移住して困っていること



注）回答数 100
　上位 5 つまでの複数回答

「特に困っていること」の主な意見は以下のとおりである。

・山なので湿気が多い。とにかくカビがよく生えた。
・ムカデが多く、殺虫剤等にお金がかかる。
・家の雨漏り。（事前に調べられないのか？もし、補修となれば、かなりの費用がかかってしまう。）
・獣害がすさまじく、農作物の多くが壊滅的な被害を受ける。
・便途不明な集金などがある。（詳しく説明してくれない）
・春夏秋冬、何らかの金銭バイトがほしい。等

24） 移住して驚いていること、意外だったこと

移住して驚いていること、意外だったことの自由回答では、「獣害に驚きました」「動物の被害があり、金網ハウスなど、農業に金がかかりすぎる」等、獣害（シカ、イノシシ等）の多さに驚いていることをあげている。

また「LP ガス、ガソリンが高すぎる」「社寺費と餅まき等の寄付が多いこと」「インフラ全般が都市より割高である」「バス代がすごく高い」等、生活をするうえでの経済的な負担が、移住前考えていたより大きいことがあげられている。

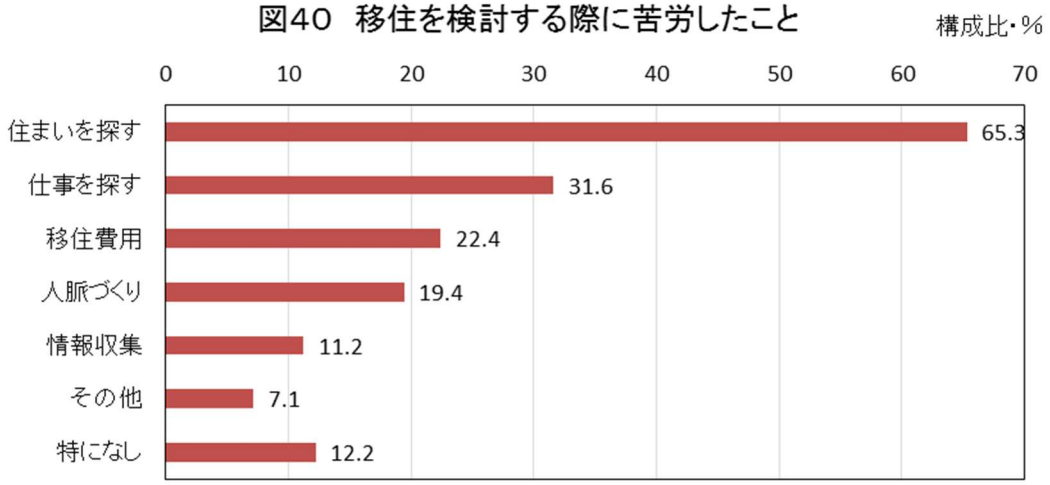
「移住して驚いていること、意外だったこと」の主な意見は以下のとおりである。

・地域の行事の内容、日時がよくわからない。
・土地の食べ物・方言・風習が豊かであるのにその記録がほとんどない。郷土料理のレシピ集がほしい。作りたい。
・集落の役員等、仕事以外で忙しい。
・お魚のおいしさは予期していましたが、お野菜等の種類も多くおいしい。
・移住者も沢山受け入れている地域なのに、意外と心理的な壁が高い。
・古いお墓の掃除など年寄りばかりが参加して若い世代は顔を出さない。
・意外と地域との交流がない。
・子どもの数が少なく、自分たちで遊びに行けない。公園がない。遊ぶ場所がない。等

25） 移住を検討する際に苦労したこと

移住を検討する際に苦労したことについて、「住まいを探す」が 65.3%、「仕事を探す」が 31.6%となっている。生活の基盤となる住居と仕事を探すことが移住の際の大きな障壁となっていることがうかがえる。

図40　移住を検討する際に苦労したこと

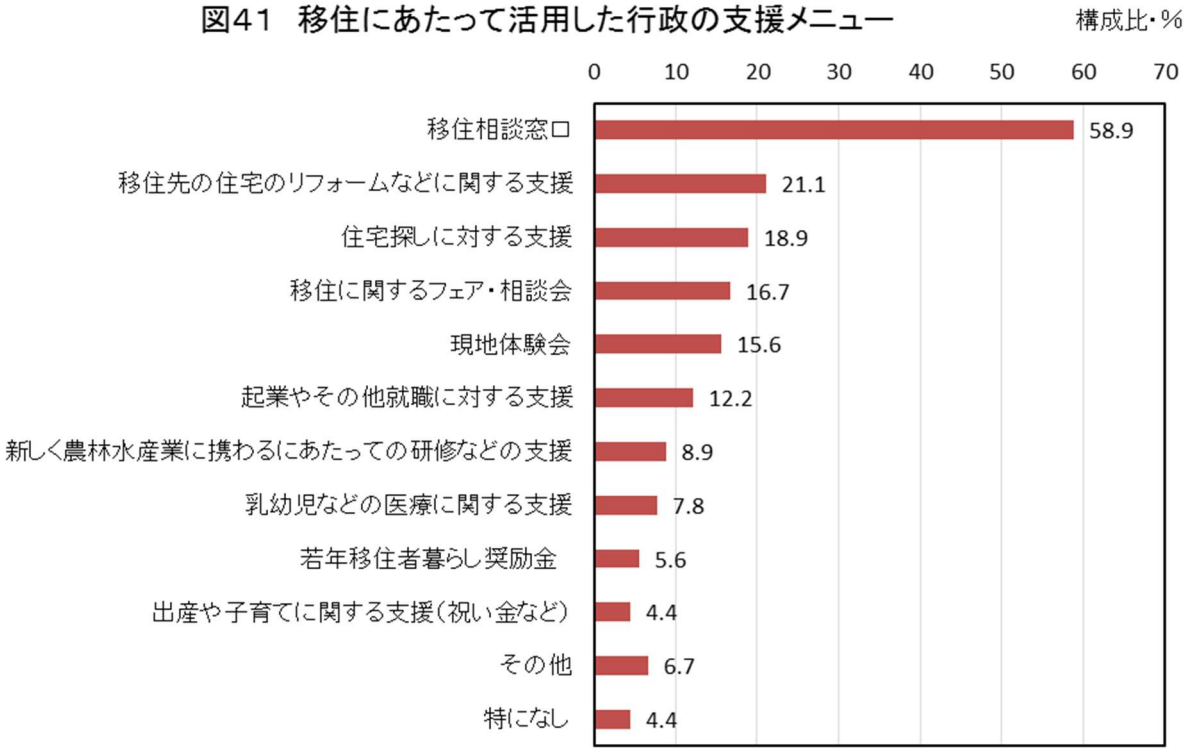


注）回答数 98
　3 つまでの複数回答

26） 移住にあたって活用した行政の支援メニュー

移住にあたって活用した行政の支援メニューについては、「移住相談窓口」が 58.9%を占めており、行政の相談窓口が、移住を相談する上で活用しやすい機関であることがうかがえる。「移住先の住宅のリフォームなどに関する支援」や「住宅探しに対する支援」がそれぞれ 21.1%、18.9%と上位にあげられていた。また「移住に関するフェア・相談会」「現地体験会」を活用したとの回答も多くみられた。

図41　移住にあたって活用した行政の支援メニュー

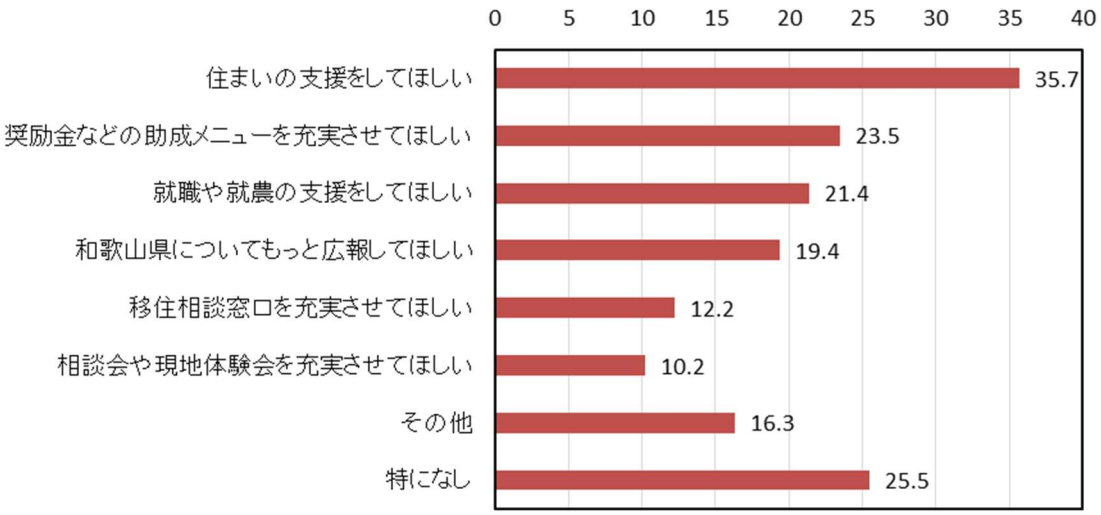


注）回答数 90
　　複数回答

27） 行政の支援に関する意見

行政の支援に関する意見について、「住まいの支援をしてほしい」が 35.7%で、次いで「奨励金などの助成メニューを充実させてほしい」が 23.5%となっている。前項でもみられたが、ここでも、移住者にとって「住まい」に関することが、大きな課題となっていることがうかがえる。

図42 行政の支援に関する意見



注）回答数 98

3 つまでの複数回答

各項目に対する主な意見は次のとおりである。

【助成メニューの充実】

・空き家改修支援の拡大。
・補助金が次年度から無いかも･･･なんてあり得ない。
・子育て支援。
・助成があると思ったら、すべて認められず期待はずれであった。
・助成を十分に使っているが範囲が広すぎるので、意外に初期費用がかかる。

【相談会・体験会の充実】

・訪問者の追跡調査（課題改善）。
・現在の体験会等の効果が疑問。

【相談窓口の充実】

・中々、行政の窓口にたどりつけず、相談方法がわかりにくかった。
・体制を考えている立場の方と、現場で動いている方の温度差を感じた。
・移住する前ではなく、移住した後のサポートがほしかった。

【住まいの支援】
・空き家を活用したお試しシェアハウスや期間限定の無料住まいの提供。
・空き家物件の情報を充実させる。
・空き家だらけだからすぐみつかるといわれたが、役場が持っている物件はあまりにも少ない。
・ちょっと人材が必要な時に来てくれるボランティア的人材の組織があったらいいと思う。

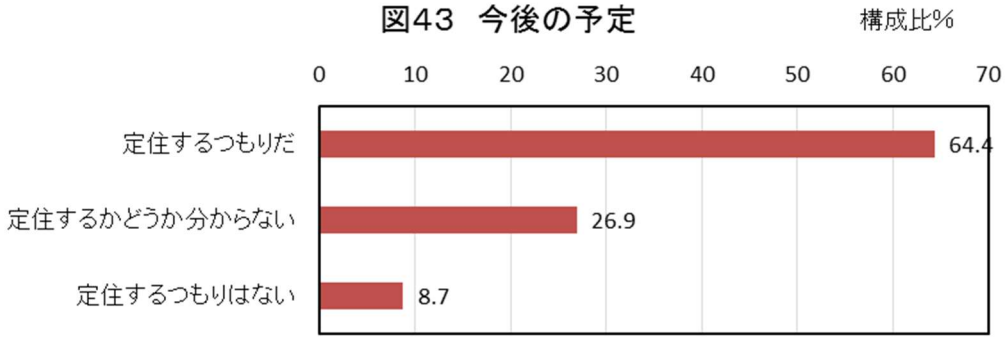
【就職・就農の支援】
・実際、ハローワークでしか仕事を探す場所がなかったため、県や町が就職先に関して協力してほしい。
・「移住後、仕事はありません」ではなく、たちまち就業できるアルバイト等紹介できるように。
・農地・農具・農機などの紹介をもっと充実してほしい。
・土地があってもなかなか借りられない。

【その他】
・最後の決め手は土地の人との出会いです。
・移住してから行政からもっとコミュニケーションが欲しい。（ほとんどない）
・移住者交流をもっと積極的にする。
・もっと柔軟な対応を。

28） 今後の予定に関する意向

今後の予定については、「定住するつもりだ」が 64.4%を占めているが、「定住するかどうか分からない」が 26.9%、「定住するつもりはない」が 8.7%となっている。

図43 今後の予定



注）回答数 104

「定住するかどうか分からない」の主な理由は以下のとおりである。
・思ったより暮らしにくい。忙しい割に収入も低い。子どもの将来に選択肢が少ない。
・親の介護がある。
・今は気に入っているが、いい場所があればいつでも移住する気持ちがある。
・地域おこし協力隊の終了後の見通しが立たないため。
・病気によっては大阪に帰るかも（子供の近所へ）。
・土地や家が見つかれば定住したいと思う。
・1 人暮らしは続けていけるかどうか、体力面で不安があるため。
・車を運転できなくなった時には住めないと思う　等。

「定住するつもりはない」の主な理由は以下のとおりである。
・田舎はあくまでも、健康であり車の運転ができることが必要条件であるから。
・人口が少なすぎる。
・獣害のないところで気軽に農業をしてみたい。
・移住した時家を買いたかったがなかった。買えていたら定住もあり得ただろう。
・現在の居住地では子供が少なすぎ、同級生がおらず、情趣面での教育に不足を感じたため町内でも子供の多いところへ移ります。
・大阪の実家がありますのでいずれ帰ります。
・両親が居なくなった際には引っ越す予定です　等。

29） 移住に関する自由意見

自　由　意　見	移住先市町村
移住＝起業のイメージが強くなっているように感じる。移住の在り方は様々なので普通の田舎暮らしをしている人がいることや移住のハードルを下げるような動きがあってもいいのではないか。 地域でどう生きていくかが問われいるのを感じます。	すさみ町
・日照時間が短いのが残念! ・若い人がいなく、高齢者ばかりになっている。外部より移住者が増えることを願う。 ・日常生活に車が必要なこと。（高齢者で免許返上しなければ・・・実行できない。）	古座川町
自分の生活と合っている。	古座川町
私は行政に頼らず、知人を入り口に、その後出会った住人の方々の伝手により移住したため、実感したことはありません。暮らし始めてから気付いたことは、やはり認知度が高くないため、田舎暮らしに興味がある人たちが訪れるきっかけになるような体験コースを行政の援助で増やしていけたらと感じました。特に子どもの山村体験は必要だと思います。宿泊だけでなく、大地や川に触れるような生の体験をさせてあげたいです。	那智勝浦町
住民の方々がやさしく、親身になって相談に乗ってくれる。 村の仕事や祭りに参加ができ生活が楽しい。移住してよかったと思う。	串本町
余生ゆっくり過ごそうと思う私たちにとって、ここは極楽浄土みたいな処だ。妻と2人で一杯訪ねたいし、孫たちの夏休みには近隣を連れ回すつもりです。（移住促進意見にはなりませんが）	すさみ町
①田舎で暮らす→暮らせない、田舎で生きる→生きれない ②どこの行政も雑誌も「田舎暮らし」の応募や募集ばかりで「田舎で生きて行こう」はない！このことが明確になればおのずと取り組むべきことも、移住者の心構えが明確になると思いますが？	日高川町
行政主導では限界があると感じます。（全てにおいて）	紀美野町
・田舎の古民家、物がいっぱい、長年の汚れやごみ・・・掃除片付け本当に大変です。せっかく定住の会があるのに、声かける人、居るはずなのに。これからの移住者さんのためにも、ちゃんと体制を整えるべきです。 　私たちは定年退職してから移住で仕事をしていなかったので、毎日自分たちでがんばったけど、正直どうなるかと不安にもなりました。子どもがいたり、仕事があったりすると、途中でいやになってしまう事もあると思います。 ・住んでいた八尾市の3倍の面積なのに、町中が知り合いかと思うほどにどこかで繋がっていて、すれ違う人には誰でも挨拶する。移住して1年弱なのに、驚くほど人間関係が広がりました。まだまだ広がります。近所の人もよくしてくれます。定住の会のメンバーとの交流もあり楽しいです。草刈、町のそうじ･･･しんどい事もあるけど、実はそんな初体験がなんだか楽しい。（初体験や初耳等がいっぱいです。） 　自然のなかで、自然と戦いながら生きる･･･それって･･･でも･･･それが本来の姿なのかと思いながらずっとここで生きていけたらいいなと思っています。 　書いてる私（妻）は本当は田舎暮らしは嫌でした。その私がこんなに変わったのです。	紀美野町
空家情報がとにかくない	古座川町
Iターン者として七年目です。大阪は堺市で28年間看板業を自営。60歳で潮時かな？と思い単身で古座川町に。地域に溶け込み孤独にもならず、田舎暮らしを楽しんでおります。 残り少なくなる人生。この地で幸せな人生をおくれるように進んで生きたいと思っております。	古座川町
移住者がいきいきと暮らすことにサポートがあれば新規移住者が住んでみたいと思うと思うので、地域が楽しそうな雰囲気となってその辺のバックアップが重要なのではと思う。 自然、風景を壊さない、田舎のよさを大事にすることに行政がもっと取り組んでもらえたら、和歌山がいい場所になるかな。	那智勝浦
空き家、荒地等を計画的に利用できるよう早期に行動を起こしてほしい。7年間、増加の一方、再利用はほとんどない。今私が住んでいる方面、七川はその地名のとおり、7つの集落からなっているが、現在各地区に存在した小学校、中学校は全て廃校。ということは子どもが0で、限界集落が目の前である状態である。 古い書物の言葉ですが「一家は村の始めにして一村は一国の其ならば奪って各地に権を分ち之を治め元気を養成するは理を似って然るべきものなり」（東北の民権家河野広中）	古座川町

体験会のようなイベントは一つの方法でしかなく、これによって移住を決められる、そのきっかけにできるか疑問です。私は体験会でよかったのは家を紹介してもらったことのみ。むしろ、常時都合のよい時期に民泊できるところが有効。（台所・お茶設備・寝具）最小限の設備で安価に（1泊2500円程度）泊まれる所必要。職員不要。その都度、町の人の自給アルバイト。2泊以上で利用可とか清掃・ごみの始末など条件を課す。暮らすことを想定して泊まると町の人、店、アクセスを体験します。朝や夜の町並みの様子もわかります。まず町と親しくなる機会を！	湯浅町
・今回、和歌山県全体でこの制度を利用する者が、私が第1号らしいですが、まだまだ知らない方が多いと思いますので、移住してくる方に対しては、住民票の変更を受付する際に、いくつか質問して、該当の可能性がある場合には、住民課から産業課へ引き継ぐ等して、制度を利用しやすいように工夫してほしいです。 ・住居に関して受入制度が全くできていませんので、空き家の家主と交渉して、県外からの移住する方に対して、すみやすい環境を作るべきです。 ・仕事に関してやりたい仕事があって串本に移住する方は別ですが、「串本が好き」または「串本の環境が気に入ったので暮らしたい」という方にとっては、ハローワークしかないのはハードルが高いと思います。地元企業と協力していただき、働きやすい環境を作っていただきたいです。	串本町
・日高川町ではゆめ倶楽部21が中心となり、移住者の移住相談を行っているが、行政担当者が対応できる人数や時間は限られているので、地域住民や先の移住者が地域案内できるように研修などを行い、官民一体となって移住希望者の引き込みをしていかないとダメだと思う。 ・他府県では、メディアを使ってPRするところも出てきているので、和歌山県としても去年のペースで、現地体験会やフェアを今後も続けてほしい。	日高川町
・移住者と地域住民が一つになって地域を盛り上げるイベントの企画。 ・地域の人は移住者をよそ者としてみているようだ（？）	日高川町
私が一番興味を持ち魅力を感じているのは、和歌山の他所には無い歴史や文化です。しかし、それがそれが大事にされているとはとてもいえません。たとえば、田辺の伊作田稲荷神社が京都の伏見稲荷の元になった神社であることは、地元文献の「田辺領寺院神社書上帳」だけではなく、京都東寺「稲荷大明神流記」にも記されており、その由緒は疑いないでしょう。しかし、地元ではそれを誰も知らず、アピールしていない。本当にもったいないことをしているといわざるえない。	田辺市
定住して初めて気づいたのは、定住者仲間の交流が心の支えとなることです。若い人は、お互いに交流する場を自分たちで作りやすいが、老人は孤立しがちです。地域には地域の人達の交流の場がありますが（老人会、婦人会、食事会など）、定住者たちの地域の交流の場をつくる手助けをしてくださると有難いです。	古座川町
移住先での仕事で、年齢にあわせた職種があるのか提示するべきです。	田辺市
空き家の活用方法	田辺市
移住を促進し定住させるなら住居をもっとしっかりするべき。仕事ももっと支援すべき。 行政の仕事などで枠を取ったらどうでしょう。そしてもっと密に連絡を行政からするべきでしょう。移住させたら後は何もされず、住まいも仕事も龍神という山の中で、自分の力だけで探すことになりました。私は手に職があり、何とでもなりましたが、家は偶然の出会いがなければ困ったでしょう。移住したら少なくとも3～5年はケアが必要です。和歌山の行政は移住を甘くみすぎです。	田辺市
色んな地域を見てきましたが、土地に対する思い入れが強ければ強いほど排他的な感じがしました。田舎に歓迎して受け入れる体制などあるように思えない。自然豊かだが、人は都会の方が楽ですね。	田辺市
移住welcomeというイメージがHP上では展開されているが、実際に窓口に問い合わせた際、「こっちに来てみてもらわないと・・」と、東京、和歌山の移動がかなり金額的にも時間的にも負担がかかることを考慮していない対応で愕然とした。地域によっては滞在費の負担を軽減するためのキャンピングカーを安価でレンタルしてくれたり、移住後の住居や仕事を積極的に斡旋してくれたりする自治体もあると聞く。折角、自然豊かで文化的にもすばらしいものがたくさんある魅力的な移住先なので、末端（実際に移住を考えている人と初めに接する立場の人）まで移住を推進したいという意識を浸透させてもらえたら、もっと移住者は増えると思う。住居・仕事・お金が移住者共通の三大悩み事です。もっとたくさんの子育て世代にわかやまの良さを伝えたい。よろしくお願いします。	田辺市
若い移住者を集めることが大事。そのためには若い人に魅力のある地域でないと移住は望めない。 行政と住民と移住者が一体になって取り組まなければ絵に描いたモチになるのでは、、、	紀美野町

田舎だから子供は少ないのだろうな・・・という先入観を持ち転居してきましたが、保育所・小学校と通うようになり、都会より人数は少ないけれどみんな何てのびのびと生活しているんだろうと子どもたちの笑顔でわかりました。近所の方々のサポートが大きいと思います。こんなに子どもたちがのびのび成長していけるのは大人に支えられて不安を感じることなく生活できているのだと思います。人数は少なくても寂しい思いをするということは絶対にないです。子どもたちが地域を元気にするということを実感しております。実際子どもたちに都会のあこがれを聞いたことがあるのですが、遊びに行きたいけれど「住むならここ！」とみんな口をそろえていいます。何もない不便なところだけど自然の豊かさをしっかり吸収して成長してくれているんだなとうれしく思います。	紀美野町
移住後、色々な情報が入らない。コミュニティの拡大、参加方法等の情報があれば、、、	日高川町
現地の視察の際に補助金の制度があると知っていれば利用できる補助金があった。現時点で補助を受けれるか未確定であるが、若年移住者の助成に締切期限や着順があるなど、インターネットで公開されていない事項については役場担当者から告知を受ける他に知りようがないので積極的にアナウンスすること、周知徹底してほしい。	日高川町
生活できる収入が得られれば、移住を決断する人がかなりいると思います。これが根本的な問題。	日高川町
地域の習慣に馴染めないため住みにくい	日高川町
・もっと若い世代の人が移住できる環境を整えないと過疎化は止まりません ・移住者も高齢化して都会に帰っていく時代になっています ・地元の人に危機感があまりないのに驚きです。	日高川町
今年で移住5年目になります。田舎暮らしはとてもいい環境で楽しく暮らしております。仕事のことを除けば充実しております。今住んでいる紀美野町だけではないと思いますが、和歌山県の移住候補地は農業を主としている家庭が多いと思います。今の農業で生活するにはたくさんの人の力と費用をかけないと収入にはなりません。低所得でも生活できるメリットもありますが、大きく仕事をしなければ収入にはならないのなら、とてもこれからの移住者に生活できる仕事もあり、楽しいですよ、とおすすめすることもできません。移住することによって移住者の生活全般の費用も周りに還元できることもありますので、和歌山県だけで県外にも農作物のアンテナショップなども県から作ってもらいたいと思います。小規模農家を支える意味もあります。以前いた箕面市には岡山の美作市のアンテナショップがあり、とても賑わっておりました。移住者向けのワークショップ、イベントなど専門的にアピールもできると思います。観光のアピールもできると思います。もう少し、検索したらすぐ出るように工夫をお願いします。 たくさん書かせていただき、乱文乱筆で申し訳ありませんでした。 移住促進CMも全国的には例もないかもしれないので全国初でするのもいいかもしれません。	紀美野町
移住のみならず観光等でも「来る人の身になって」のおもてなしをしているか疑問である。特に語り部になってから観光関連の窓口と話すと、そのことをすごく感じる。	田辺市
紀美野町定住支援を窓口としてお世話になりました。空き家が多くあるのですぐに住宅が決まるので心配ない、町の仮住宅に入居し町内に住みながら探せばよいといわれ、そのように来ました。 しかし、外に対してのPRには力が入っているのですが、実際は住むに耐えない住宅を3ヶ月に1件程度紹介されるだけで、情報の少なさに困惑しました。住宅トラブル回避のため個人の交渉は禁止されていました。空き家主さんの賃貸意志確認だけでも1ヶ月以上もかかり、途中経過の報告も何度も催促しましたがありませんでした。地元の方に相談したところ、1日で家主さんと連絡をとってくれました。個人で町内外の空き家を探しまわりましたが、なかなか見つからず結局1年半かかり、今の住宅に決めました。仕事もせず、山奥の仮住宅に住み結構高い家賃を17ヶ月払いました。役場の方にとっては個人の気持ちや損失など気にもならないようで、町議さんに口ぞえをしてもらったり、町長に直談判したらやっと少しましになりました。国か県かの補助金が出るということだったのですが、一度町の仮住宅に住民票を移しているので町内移住の扱いになり、我が家の場合は補助できないといわれました。隣町からの人には補助金が出て、北海道からきて1年半かかった我が家には出さないとは情けないと思いました。古い住宅を個人でリフォームして住んでいますが、仕事も少なく、ここまで貯金が減るとは思っていなかったです。当時とは担当者も変わり、のちの移住希望者が同じように困っていなければよいと思います。	紀美野町
・移住者交流会や就農者の経験発表会などを開いてほしい ・移住者の日常的な交流組織がほしい ・移住者の意見、要望をくみとり、行政の施策に反映させるための取り組みを行ってほしい ・地域の活性化にとって移住者の意見を聞く場を行政に計画してほしい ・就農希望者は多いと思います。営農支援を日常的に行ってほしい	日高川町

通信方法がケーブルテレビ回線に限定されているため通信速度（NET）が遅い。NTTの回線が近くまで来ているはずだが工事がされていないのは不便。 杉材の有効活用として薪ストーブを使いたいがオール電化がテーマの住宅らしく活用方法のずれを感じる。（火災対策だと思うが）せっかく余っている間伐材があるのだから使えるように煙突工事等で補助を行い、モデル住宅としての活用方法を広く多くの都市部生活者に知っていただきたい。太陽光発電等も補助があれば設置に協力したい。	田辺市
せっかく移住促進のVTRを作ってもインターネット上でアクセス数が伸びなさそうなアップロードの仕方をしている気がします。	田辺市
県全体が田舎では寂しいので東京都や大阪府のように都会の区域と田舎の区域を分けたほうがよい	田辺市
空き家の数がたくさんあるのに貸してくださる家が少ないので空き家の持ち主に貸すことのメリットを正しく伝わるようにしてもらえるといいかと思います。 大阪市内では同じ市内通勤なのに地下鉄で45分の通勤時間がかかり、しかも45分ずっとストレスを感じる状態だったが、ここではほぼ同じ通勤時間ずっと車の運転をするもののストレスなし。田舎には仕事がないというが、芸術や農業やノマド？ワークなどでなくごく平凡な勤め人として働くにしても探せばある。特別なことではないと実感。収入は半分近くになったが、水・空気・景色などは都会では得られなかったので満足しています。「田舎暮らし！！」と力まず、「簡単」にできると思いました。「安易」ではなく。	紀美野町
・空き住宅や仕事の状況、環境についてに情報提供と地元住民の受けれ体制を整える ・受入地域の活性化、若者でも生活できる仕事をつくる	田辺市
移住する前は良いことばかりいっていましたが、移住したらしたで、聞いてないこと知らないことがありすぎて困ってしまった。詳しく調べられなかった自分たちも悪いと思いますが、サポートがあるからと安心していたのも事実です。ところが移住してからというもの、一度もサポートを受けたことがありません。例えば移住前、保育園もちゃんとありますと聞いていましたが、来ると同じ田辺市でもすごく距離もあり、体調を崩したときにサポートを申請しましたが利用することができず、すごく不安ですごく残念だった。何をどこまでどういう風なサポートなのか、と思った。移住したら放ったらかしのような気がします。	田辺市
地域間交流の促進、相互理解の助け、インタープリターとしての役割	那智勝浦町
ごみ袋簡素化してほしい。他の家はゴミ出しどうしているのかな 交流センター（鎌滝）利用活性化してほしい	紀美野町
移住後に思ったのは仕事が介護職など高齢化が進む地域では仕方ないが、若い人が仕事に魅力と誇りを持てるような仕事があってほしい。移住する窓口の充実差は増えてきている気がするが、生活していくための仕事が薄いように思います。都会に住んでいても良い仕事につけるとも限らないが、和歌山県のもつ資源を活かした仕事作りや新しい仕事の開発などを充実させてほしいです。	田辺市
夫婦共資格をもつ職業のため移住するための仕事探しには苦労はなかった。こちらでふつうに会社員となる道は険しいと思う。ただし家は売ってもらえず、3LDKで子どもたちを育てた。今は家もけっこう売りに出ていてうらやましくもあるが、、知り合いも増え家があったら定住もあり得たと思う。これも時代だと受け入れて定年後の移住先（都会になると思う）を探し始めている。子育て、自分のストレス回避にはこの田舎は最高でした。	新宮市
別項でも記入してが、県条例でも何でもよい。空き家をもっと活用できる規約を確立すべきだ。個々の財産権の問題があるから大変だが、財産権も時と座合いに依りけりということではないか。 地域性こそ最優先すべきだ。霞が関の議員諸士や公務員等々が今の様子を作り上げてきた。東京への人口集中は霞が関諸官庁を全国に、各地省庁くらいの荒治療をして初めて多少の人口分散はできるだろう。それとて十分でない。もういいなどとは言わないでやるべきだ。 取材生活中の東京で「篠崎信男」という人口問題研究所の御人に出会った。時の国会へはいつも人口問題云々を言ったが耳をかす者がいなかった。産業界はいうに及ばずだ。ところが彼の口にしていた人口減少がやがて始まり、過疎化という非常時になってやっと人口問題だ、遅すぎる。遅すぎるからと言って荒治療しなければなるまい、ということでは大都市人口集中は止まらない。地方の頑張りもそこにはこずと限界がある。地方都市の集積が国だ、だとしたら国の議員連中がもっと真剣に考えるべきだがそうなっていないのが悲しいね。	那智勝浦町
紀美野町の移住者同士のコミュニティがあってよかった	紀美野町

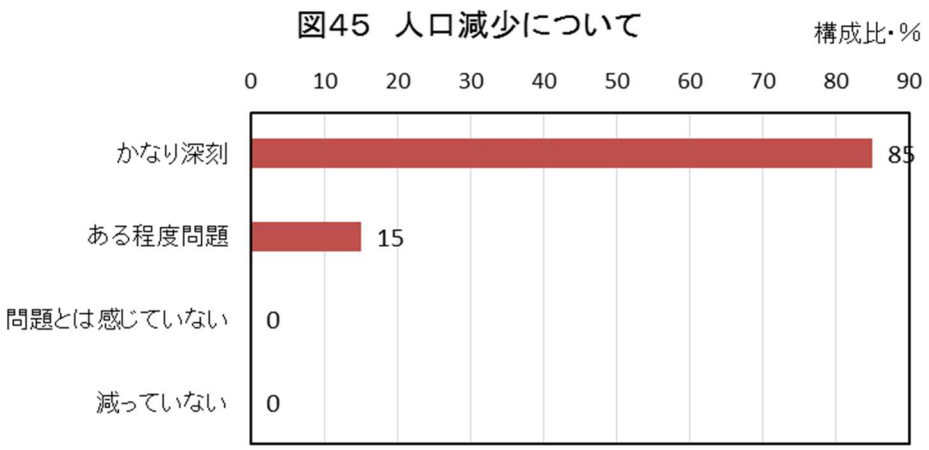
・あまり深く考えず関東から和歌山に来ました。とても不便なイメージだったが、和歌山は関空が近くにあり（白浜にも）LCCの運搬も増加しているので思ったより簡単に安く早く帰省できることにびっくりした。この点はとてもアピールになると思います。 ・移住者に対する支援だけではなく、地元住民を外に出さない政策にも力をいれるべき。	日高川町
・医療があまりにもひどい、おそろしい医療の貧困である、学校を作って人材を育てる必要があるが、まずは予防医療で元気を維持すべきが急務である ・自然天然の資源はこれからますます大切になっていくものであるが、日本ミツバチももっと守るべきである。古座川を無農薬地帯と位置付けて実験地区指定にしてほしい。無農薬地帯でとれたはちみつも農産物もその加工品も全て世界に対応できる商品になりうると思う。 ・山・川・畑、各々の幸について、先ず県民も観光で生きていくという意識が低すぎる。（県民の教育が必要）各々の分野の良さが全く活かされていない。資源的にたくさんいいものをもっているが、見せ方・アピールの仕方・製品にするアイディア・美意識が劣っている。資源→製品→販売、各々をトータルに考え、推進する意識の高い人材による統率が必要である。役場の仕事ぶりも、家族ぐるみで（悪い意味で）世界をみつめる考えの人はいない	古座川町
移住者の交流を行政で企画・運営するような取組みがあってほしい。特に現在地はほとんどなく、地域の活動に積極的に参加してはじめていろいろな情報が入手できる。もっと地域の方が「ここがいいところだ」と自信をもって話をしてほしい。	日高川町
行政に何かしてもらったイメージはなく、ほぼ自力（地域の人たちの力添え）でこちらに来た感じです。他県に比べ（今話題の高知県など）、和歌山は遅れていると感じます。何か特化したメリットを考え、それをうまく発信していけるような対策でないと、今後はIターン、Uターンも増えていかないと思います。Iターンの我々の子供がまた都会に戻っていってしまっては残念なので、そちらの対策もしていってほしいです。	那智勝浦町
和歌山県は他県に比べて移住に関する支援やPR等が消極的であると感じる。	高野町
子どもが生まれ、高校や大学の心配が大きい。龍神分校以外だと家から通えない為、多大な出費がかかる。子どもに合った高校及び、大学の選択が限られる。	田辺市
家の生きた情報（実際に売ってくれる家、情報）の充実	広川町
地域に慣れるのに少し時間がかかりますね。意味も分からないこともあり、これってどういうことってよく聞きました。本当に良くしてもらった岡崎良子さんも亡くなりました。今までよくしていただいた色々のこと、これからは後から入ってきてくれる人の助けになっていこうと思っています。赤ちゃんの入浴など、子育ての助けなど、今までしてきた経験で今ならまだ活かせます。どうぞ使ってくださいね。	新宮市
何年たっても自分たちはよそ者扱いをする方がいるので（みんなではない）、市町村の先に立ってくれてる方たちに話してほしい。	日高川町
まず山間を流れる川の美しさには驚きました。心が洗われます。よく田舎は何もないと言われますが私はそこに魅力を感じます。あと静けさは心の安らぎです。 山間地域は特に季節の移ろいがよくわかります。熊野古道を歩くと熊野の大いなる自然を感じられました。 田舎の豊かな自然に日々癒されています。この恵まれた環境で暮らせることを幸せに思います。	田辺市
若い人を移住してもらうためには、就業支援が不可欠。単に農や地域にあこがれて、だけでは長続きしない。簡単に自立起業はできないし生活維持できる程度の収入を支援する必要もある。	有田川町
分かっていたことではありますが、生活するうえで必要となる生活費を捻出するための仕事があまりにも少ないこと。ちゃんと生活できる基盤がもっとあればと思いました。	串本町
水がまず限界で空き家、田畑はありますが移住したいといって来られた方にまず水が出ませんといわれます。もうこれ以上人が来られても土地、田畑を買い入れても新築などとんでもないことです。現在はソーラーの設備がやっと1ヶ所できたところです。農地法もあるので困難のようです。	田辺市

・助産院、助産婦、医師（女性の産科医）の誘致、充実 ・産後の家事、家族サポート、子守りサービスシステム作り、充実 ・空き家に入った場合、賃貸、購入に限らず大量のもとの持ち主のゴミ、所品などの処分費用 地元の人、家や田畑、山林を放置している人（都会に出て戻ってこない息子・孫世代など）の権限が強すぎて、移住者が地域を住みよい場所にしようと活動しても限界がある。行政が間に入ってくれると状況は改善されると思う。 ・家にせまる山林の伐採を家主に命じる→獣が多すぎて畑、生活ができない ・犬の放し飼い（夜間のみなどモンキードック）の法整備	那智勝浦町
となりの住人が家屋と大木を放置して出ていってしまった。木が大きくなりすぎて大きな枝がくさって落ちてくるのが危険。区や町に相談しても何一つ力になってくれず、仕方ないので自分で切った。素人なので大変だった。放棄地の草刈りを頼まれるのがとても大変。	那智勝浦町
定住センターの方々の熱意がなければ定住することはなかったと思います。熱意と意欲のある人が窓口に立っていてほしいと思います。普通に仕事をして生活する移住者がもっといていいように思います。移住＝一次産業への就職、自営業で何か始めるというイメージが持たれているが、普通の事務職など組織に属して生計を立てるという定住の在り方もありだと思う。人脈もないところで今までと縁のない仕事をするのは大変だが、定住が成功するために経済的な安定は必要条件と考える。移住＝農園、カフェ、というイメージだけでない多面的な広報の打ち出しをしていく必要があると思う。	新宮市
行政サイドに対して：退職したら他に移ろうなんて思うようなスタッフの対応は困る。この町は素晴らしい、よい所がある、この町に住み続けると思える街づくりを常に考えて行政に携わってほしい。私達は退路を断ってこのまちに「いらっしゃい」と声をかけてもらって移住してきている。ハシゴをはずされたら困ります。 私として：移住してきた者に見える良い点をまず住民の皆さんに伝えたい。そして皆さんに「ここは良い場所なんだ」と認識してもらいたい。遠方の友人に木てもらって直接良い点を伝えてもらうようにします「山・海は種々準備してから出かける所と思っていたのに・・ちょっと行こか？なんて夢みたい。魚食べるか？とってきた・・・エー！！」（これは我が家に来た人たちの言うことです）	紀美野町
移住後その地にしっかり慣れ溶け込み、本気になってその地域でやっていこう、やっていきたい、やっていけるかなという人に対してサポートを行い、移住→定住へとつなげ、地域の確実な担い手を確保したい。そういう点では長期視点的な計画的移住・定住策が望まれる。	那智勝浦町
移住者が地域活動に参加できる様な仕組みがほしい。社協関係の教室を増やしてほしい。居住地域に馴染めない。	白浜町
移住を目的にするのであれば一日でも若いうちが良いと思います。年をとってからの田舎への移住はなかなか地域と溶け込んだりするのが難しいのではないかと思います。田舎に暮らしながらも現代ではパソコン一つでお仕事もできる時代です。農業も無農薬野菜の宅配などもできますし、田舎に住みながら楽しく、いろんな意味で豊かに過ごすことができると思います。ぜひ一日も早いうちに田舎へ移住しましょう。	新宮市
この地は気候も温暖であり、自分個人としては夜の星空の美しさに改めて感激しております。念願の和歌山紀南地域に住めることができ、嬉しくて、楽しくて、感謝しております。	白浜町
町に温泉があるのに町民が温泉に入れないので割引などサービスをすること。 田んぼが多く米どころなのに米が高い。TVが有料？NHK有料？都市から見れば納得いかず。 街灯が少ない。少ないからよけいに田舎って感じが強く感じられるので街灯は増やしてほしい。	日高川町

３　受入協議会アンケート調査結果

1）活動地域の人口減少について

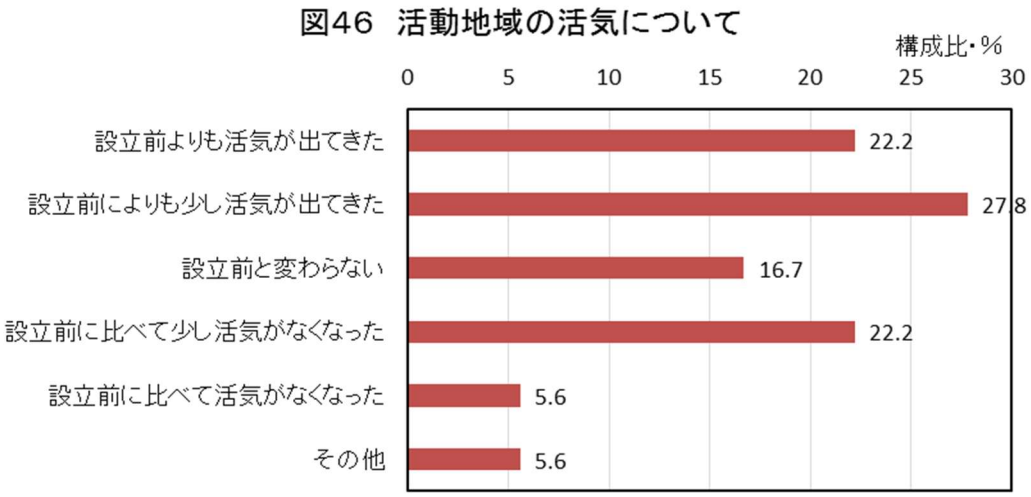
活動地域の人口減少については、85%の協議会が「かなり深刻」、15%が「ある程度問題」と回答しており、人口減少が大きな問題となっている。



注）回答数 20

2）活動地域の活気について

受入協議会設立後の活動地域の活気については、「活気が出てきた」22.2%、「少し活気が出てきた」27.8%を合わせると、半数の協議会が「活気が出てきた」と回答している。しかし、協議会設立後も「設立前と変わらない」「少し活気がなくなった」「活気がなくなった」との回答も 44.4%とほぼ同程度みられる。「その他」は「移住者の多い地域では活気が出てきている」であり、移住者の受入が地域の活気につながっていることがうかがえる。



注）回答数 18

3) 活動地域のセールスポイント

移住希望者に対しておすすめできる地域のセールスポイントは下表のとおりである。

県北部地域では「大阪に近い」「都会に近い」「交通アクセス」等を、また、県中部・南部地域では「自然の豊かさ」「住民の人柄・あたたかさ」等をセールスポイントとしている協議会が多くみられる。

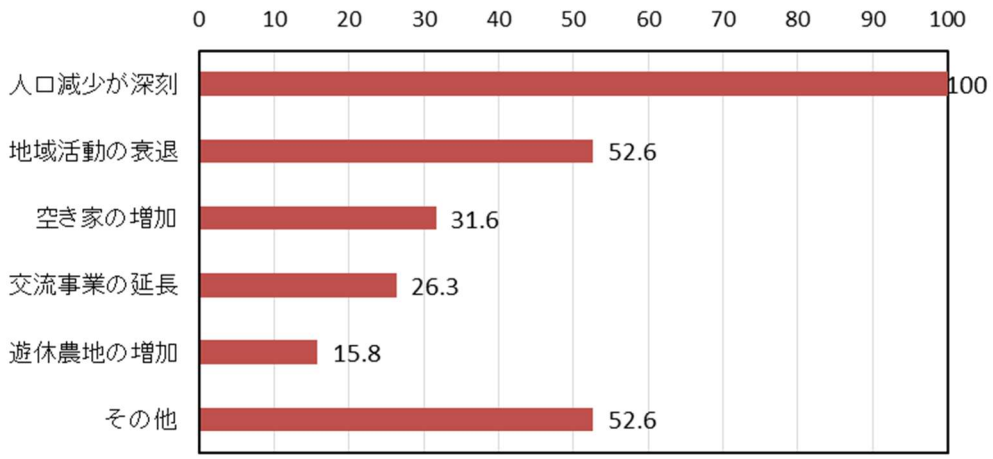
活動地域のセールスポイント

紀美野町	都会から近い田舎
かつらぎ町（新城地区）	都会への近さのわりに豊かな自然が残っている。移住者に対するやさしさ（山村留学を通じてたくさんの人たちを受け入れてきた経験）
かつらぎ町（四郷地区）	交通の利便性の良さと田舎暮らしの両方を兼ね備える。（和泉市へのトンネル開通、京奈和自動車道の延伸）
かつらぎ町（天野地区）	豊かな自然と歴史文化及び住民のあたたかさ
九度山町	大阪に近い
高野町	自然が良い。豊かな人間関係
湯浅町	本町においては振興局、税務署、法務局等、国、県の機関がそろい、非常に便利な所、また、歴史・文化的な面もアピールポイント
広川町	交通アクセスがいいため都市との行き来も可能である。
有田川町	人がいい。
由良町	海が近い。
日高川町	地域外の人を受け入れる地元民の寛容さ(寛容力)
田辺市	田辺市は紀南の中核都市であり、市街地域には商業、医療、教育などの施設が整っていることで、田舎暮らしを感じられる生活ができる一方で、生活をするうえで比較的便利なところである。また、世界遺産熊野古道に代表される歴史や文化も多様で、交流人口も多いことから、山村地域においてもあまり閉塞感がない。
白浜町	海、山、川
すさみ町	子育て支援施策の充実、静かですごしやすい住環境
新宮市	自然、熊野信仰
那智勝浦町	・多くの住民が地域に強い居場所感を持って暮らしている。 ・様々な思いが形となっていて「多様性」を実感できている。 ・「これから」に思いを馳せる気運が高い。
古座川町	手つかずの自然とあたたかい住民の人柄
北山村	住宅取得補助、空き家改修補助、家賃補助、保育料無料、高校生以下の医療費無料、英語教育、中学生の語学研修、給食代無料
串本町	温暖な気候、温かみのある人々

4) 協議会活動のきっかけ

受入協議会活動のきっかけになっているのは、全協議会とも「人口減少が深刻」であることをあげている。また、人口減少に伴う「地域活動の衰退」52.6%や「空き家の増加」31.6%等も協議会活動に取り組むきっかけとなっている。

図47 協議会活動のきっかけ



注）回答数 19
複数回答

5) 協議会の活動経費

平成 27 年度における各協議会の活動経費は下記のとおりである。約半数の協議会が県補助金（最大 25 万円）と市町村費で活動を行っている。

受入協議会の活動経費（平成27年度）　　単位:万円

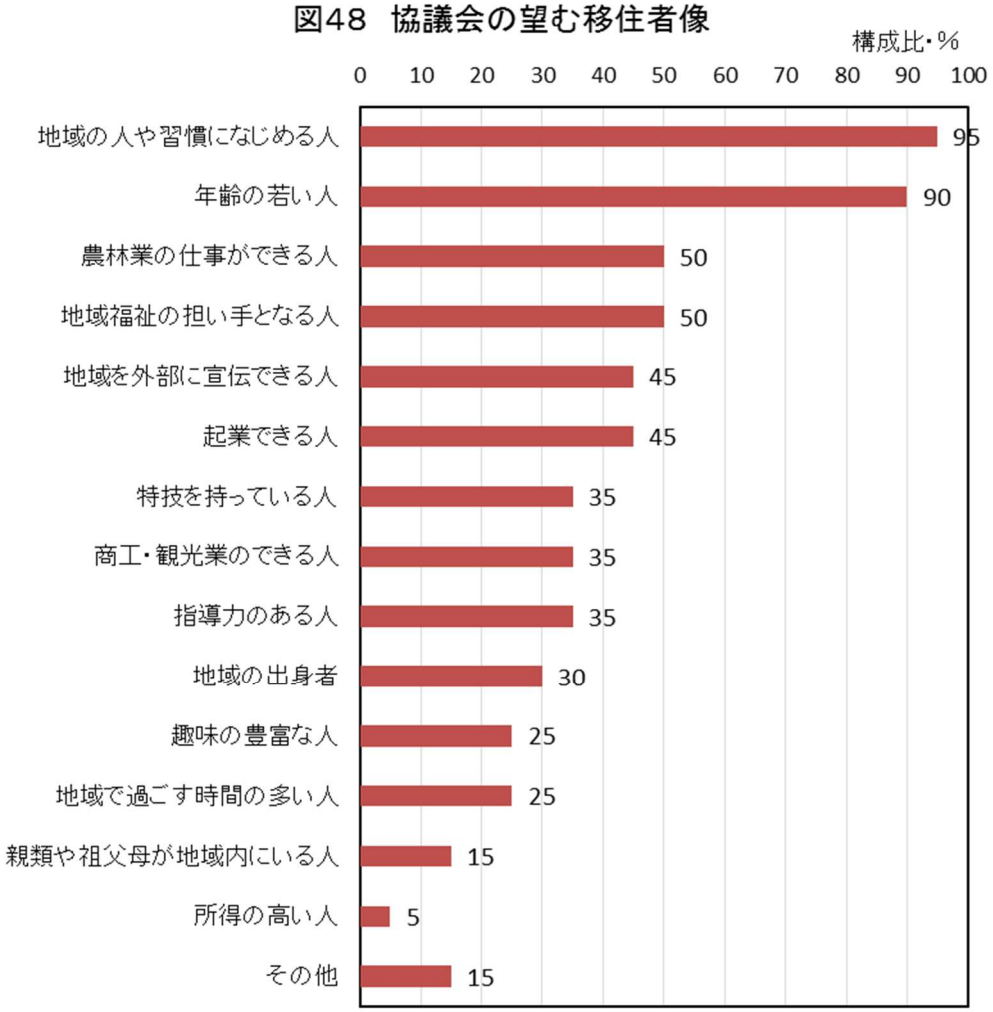
協議会名	市町村名	県補助金	市町村費	その他	合計
特定非営利法人きみの定住を支援する会	紀美野町	25.0	25.0	0.0	50.0
新城地区定住推進協議会	かつらぎ町	0.0	0.0	0.0	0.0
四喜の会	かつらぎ町	0.0	0.0	0.0	0.0
天野の里づくりの会	かつらぎ町	0.0	0.0	100.0	100.0
九度山町区長連絡協議会	九度山町	0.0	0.0	0.0	0.0
花坂さくら会	高野町	15.0	15.0	0.0	30.0
湯浅町まちおこし連絡協議会	湯浅町	25.0	25.0	0.0	50.0
広川町移住者受入協議会	広川町	0.0	0.0	0.0	0.0
安諦地区田舎暮らし支援協議会	有田川町	2.5	2.5	0.0	5.0
由良町受入協議会	由良町	0.0	0.0	0.0	0.0
印南町移住推進協議会	印南町	0.0	0.0	0.0	0.0
ゆめ倶楽部21	日高川町	25.0	30.0	0.0	55.0
田辺市定住支援協議会	田辺市	25.0	25.0	0.0	50.0
一般社団法人　南紀州交流公社	白浜町	0.0	0.0	0.0	0.0
すさみ町受入協議会	すさみ町	0.0	0.0	0.0	0.0
熊野川地域森林と川の資源活用ほんもの会	新宮市	0.0	0.0	0.0	0.0
色川地域振興推進委員会	那智勝浦町	25.0	25.0	0.0	50.0
古座川町産業振興委員会	古座川町	25.0	25.0	0.0	50.0
北山村受入協議会	北山村	0.0	0.0	0.0	0.0
串本町移住交流推進協議会	串本町	12.5	12.5	0.0	25.0

注）金額は年度途中に調査したものであり、精算額とは異なる。

6）協議会として望んでいる移住者像

受入協議会として望んでいる移住者像については、「地域の人や習慣になじめる人」が 95%、「年齢の若い人」が 90%と高い割合になっており、受入地域として、地域になじんで将来を担う人材を望んでいることがうかがえる。また、「農林業の仕事のできる人」「地域福祉の担い手となる人」「起業できる人」「商工・観光業のできる人」「指導力のある人」などが上位にあげられており、移住者が地域活動や地域の産業の新たな担い手として期待されていることを示している。

図48 協議会の望む移住者像



注）回答数 20

複数回答

「その他」の回答

・地域の維持・向上に寄与してくれる人(行事や地域活動に積極的に参加してくれる人)

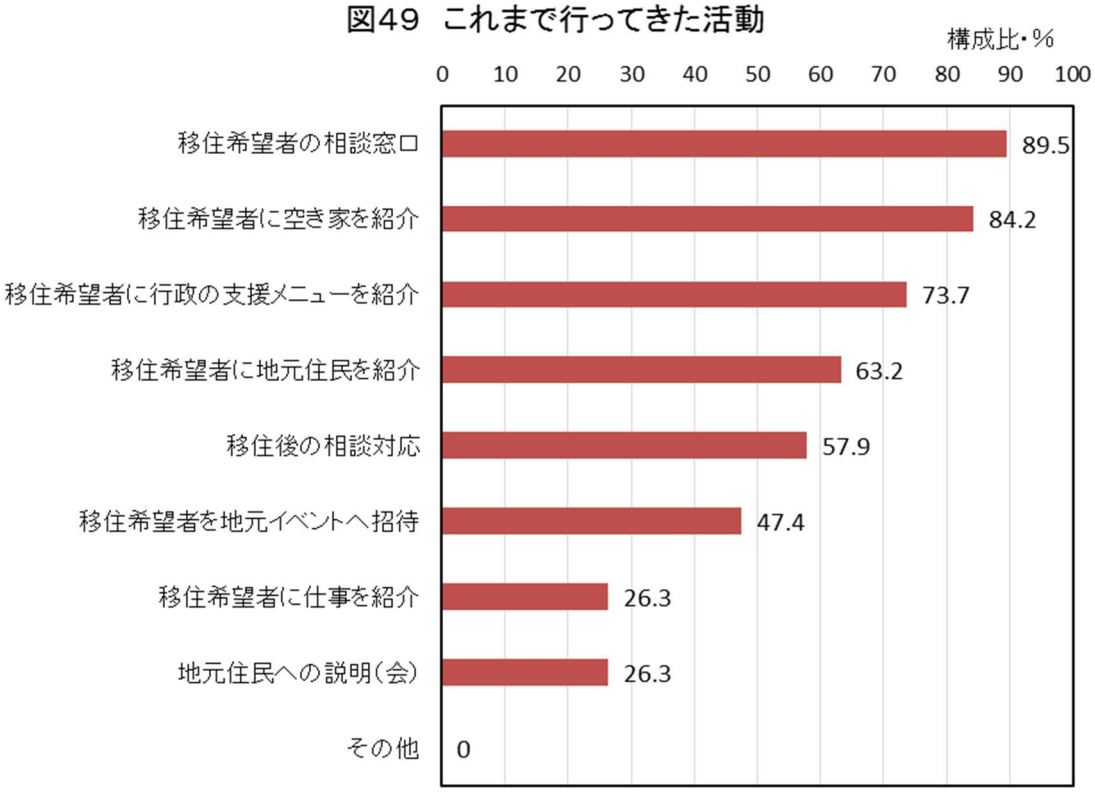
・「仲間探し」と捉えているので、強い居場所感を持って共に生きようとする人

・地域を本当に好きになってくれる人

7）協議会としてのこれまでの活動内容と今後の活動

協議会としてこれまで行ってきた活動については、「移住希望者の相談窓口」が 89.5%と最も多く、「移住希望者に空き家を紹介」がそれに次いで 84.2%となっている。一方で、「移住希望者に仕事を紹介」と「地元住民への説明（会）」の活動は両方とも 26.3%と少なく、取り組んでいる協議会が少ない。

図49　これまで行ってきた活動

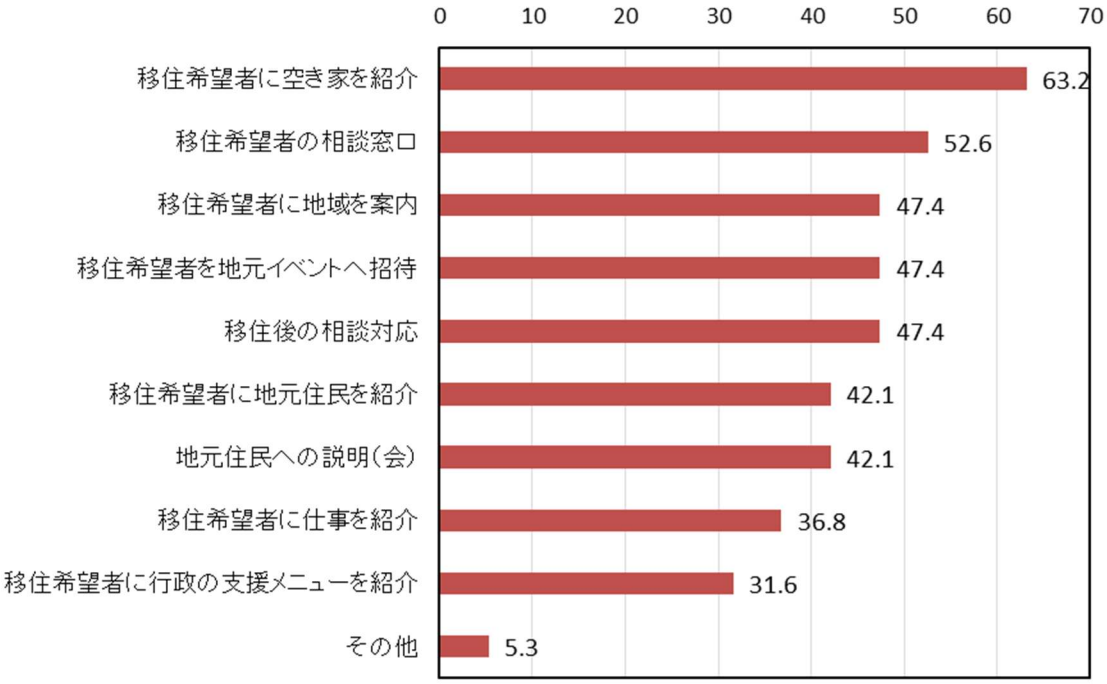


注）回答数 19
　　複数回答

協議会が「今後新たに取り組む・充実させたい活動」として最も回答の多かったのは「移住希望者に空き家を紹介」63.2%で、次いで多かったのは「移住希望者の相談窓口」52.6%であった。これまで行ってきた活動と大きな変化はみられない。また「移住希望者に地域を案内」、「移住希望者を地元イベントに招待」、「移住後の相談対応」がそれぞれ 47.4%となっており、協議会として移住者が地域に溶け込め易くなるように工夫している点がうかがえる。

また、「その他」として「行政と連携した移住・定住施策の充実」との回答もみられた。

図50　今後新たに取り組む、充実させたい活動　　構成比・%



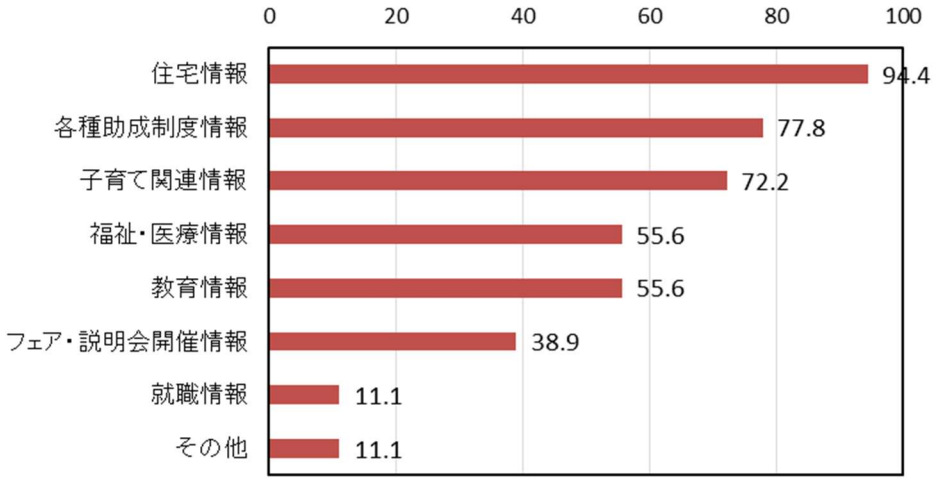
注）回答数 19

複数回答

8）相談窓口で提供している情報について

相談窓口で提供している情報については、「住宅情報」94.4%が最も多く、ついで「各種助成制度情報」「子育て関連情報」「福祉・医療情報」「教育情報」と続いている。「その他」として、「町内案内・水道の状況など、地域の様々な情報を相手に応じて提供している。」「行政サービスについては行政に任せている。」との回答もあった。

図51　相談窓口での提供情報　　構成比・%



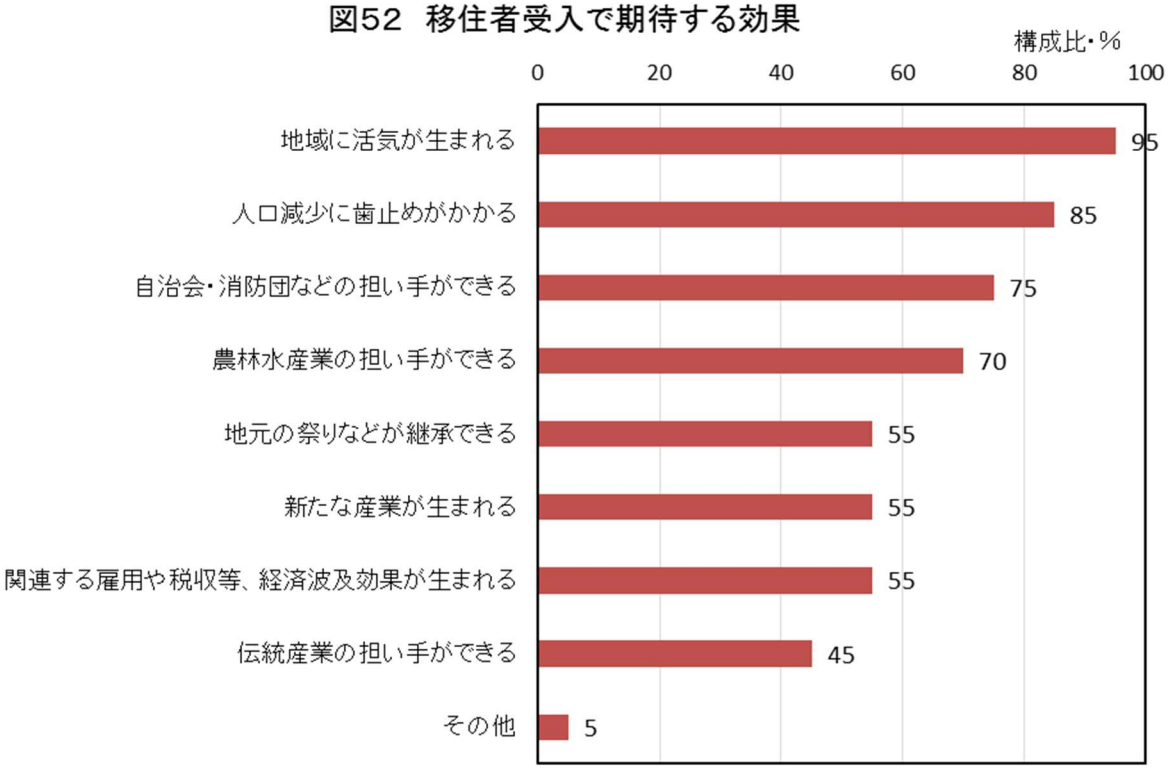
注）回答数 18

複数回答

9）移住者受入で期待する効果について

移住者受入で期待する効果については、「地域に活気が生まれる」が 95%で最も回答が多く、次いで「人口減少に歯止めがかかる」85%である。また、「自治会・消防団などの担い手ができる」75%、「農林水産業の担い手ができる」70%、「地元の祭りなどが継承される」55%など、移住者が地域活動、地域の産業の新しい担い手となることを期待している回答が多い。また、「その他」には「地域を存続させる」ことを希望しているとの意見もあげられていた。

図52　移住者受入で期待する効果



注）回答数 20

複数回答

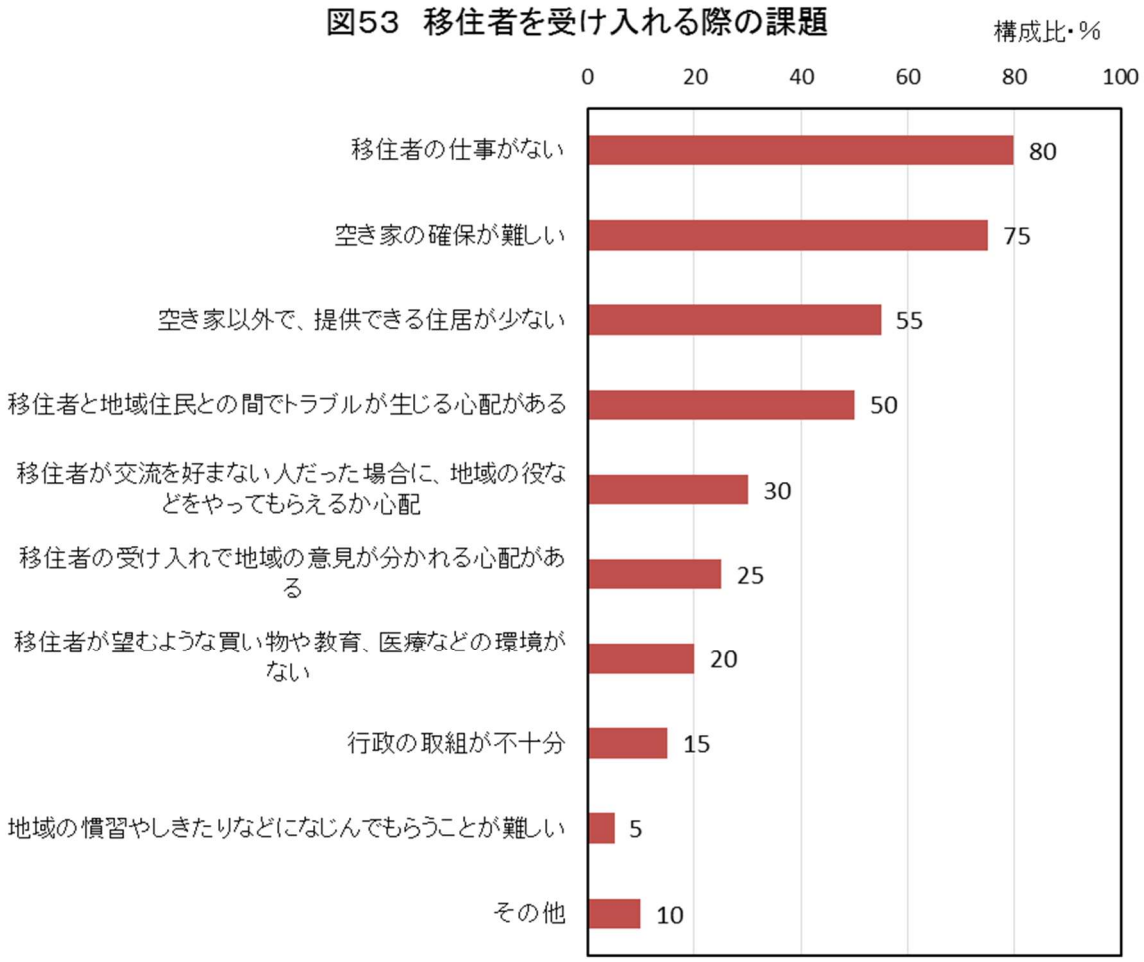
10）移住者受入の課題

移住者受入の課題については、「移住者の仕事がない」が 80%で最も多く、「空き家の確保が難しい」75%、「空き家以外で提供できる住居が少ない」55%と次いでいる。地域への移住にあたっては、「仕事」と「住まい」の確保が、大きな問題となっている。

その次に多くあげられたのは、「移住者と地域住民との間でトラブルが生じる心配がある」50%、「移住者が交流を好まない人だった場合に、地域の役などやってもらえるか心配」30%などの地元住民と移住者との衝突に関係する項目であった。

また、「その他」として、「受入協議会や地区の受入体制ができていない。」、「移住希望者にしっかりした覚悟を持ってもらうための研修や場づくりが必要。地域は将来にしっかりした思いを馳せ、移住者は「地域らしさ」をしっかりと学ぼうとする姿勢がまだまだ弱い。」との意見もあげられた。

図53　移住者を受け入れる際の課題



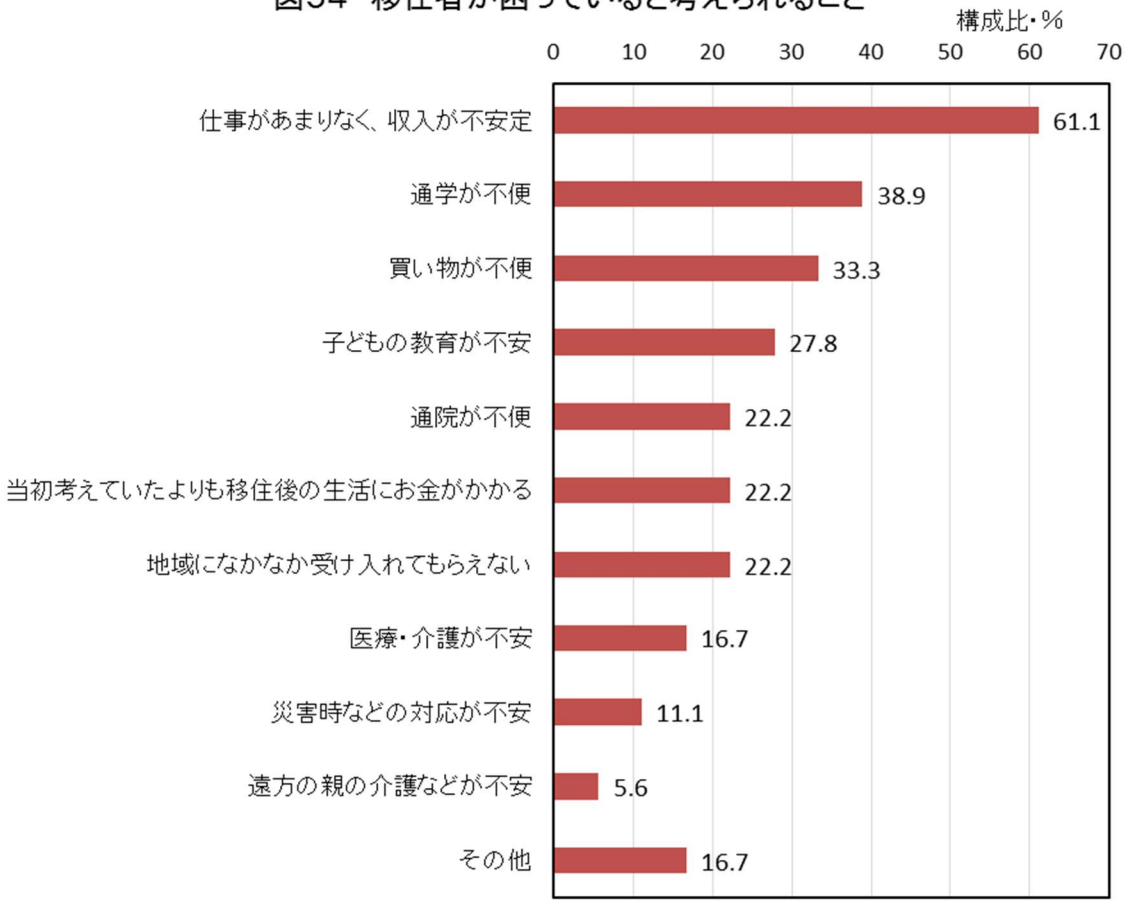
注）回答数 20

複数回答

11）移住者が困っていると考えられること

移住者が困っていると考えられることについては､｢仕事があまりなく､収入が不安定｣が 61.1%と最も多く、次いで多かったは「通学が不便」38.9%、「買い物が不便」33.3%、「子供の教育が不安」27.8%、「通院が不便」22.2%等であった。「移住者は生活の不便を覚悟したうえで移住しているので、これらの項目は困っていることには当たらないだろう」との意見もあった。

図54　移住者が困っていると考えられること



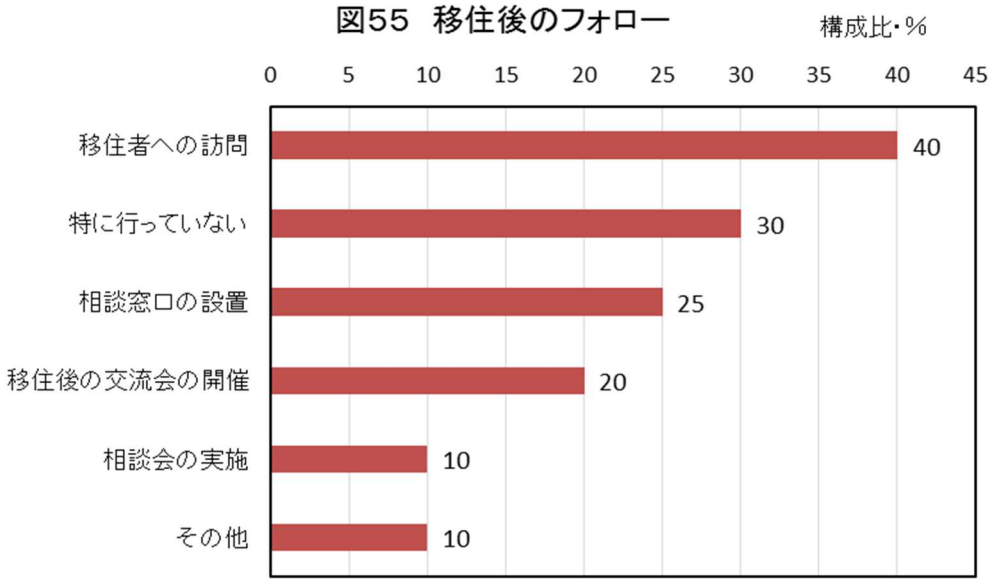
注）回答数 18
複数回答

「その他」に関する回答

・子供がすくないため、子供にとっていい環境といえない。家がない。
・移住者の考え方次第で大きく差があり一概にいえない。
・地域の人との交流が少ない。水害が多い。

12）移住者への移住後のフォロー

移住者への移住後のフォローについては、「移住者への訪問」が 40%と最も回答が多く、次いで「特に行っていない」が 30%となっている。「その他」では、協議会としては「相談がある場合には適時対応している。」、「移住後の日常の暮らしの中で生まれる地域の人たちとの関わりにすべて委ねている。」との意見もあった。



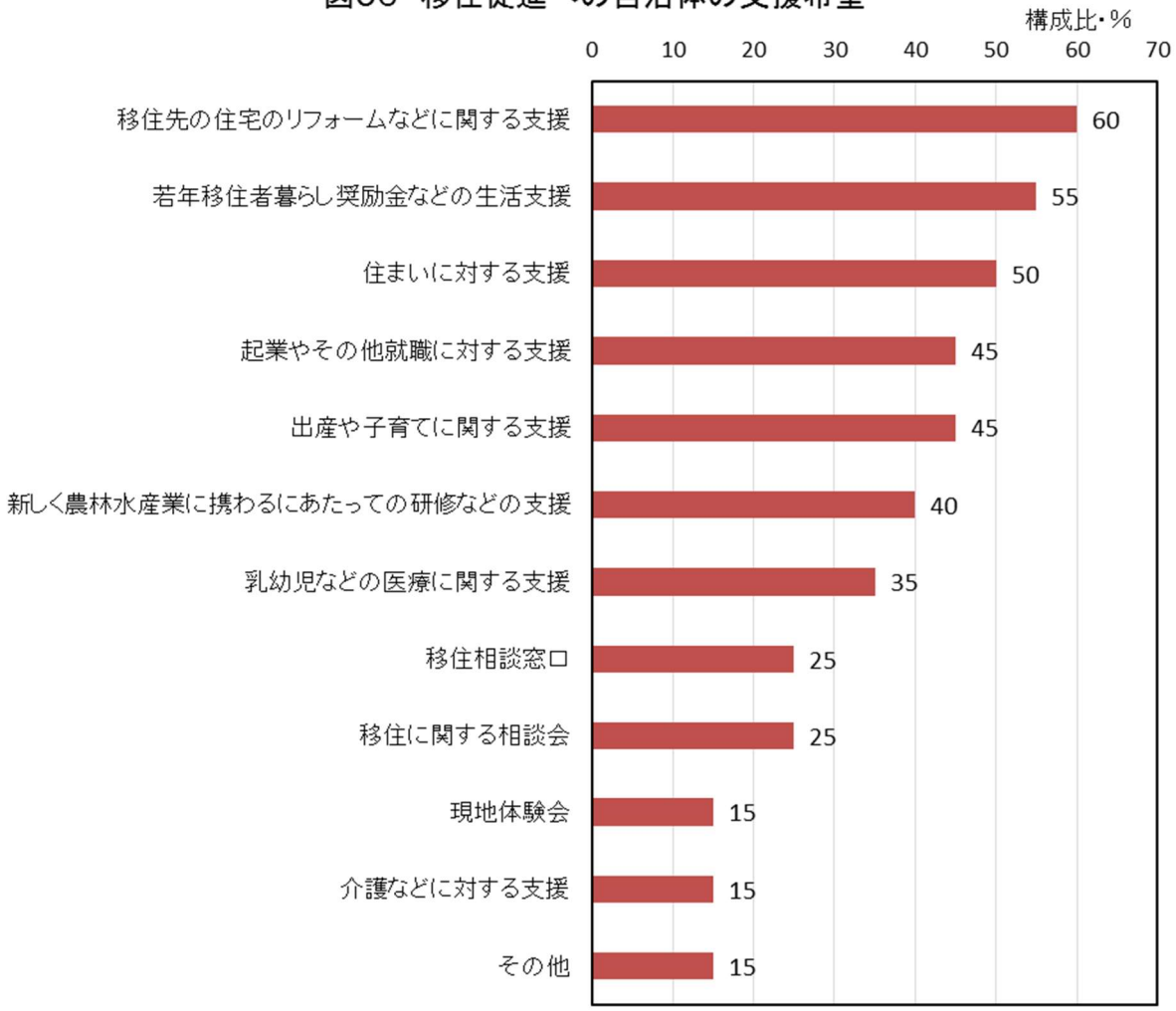
注）回答数 20

複数回答

13）移住促進に関する自治体の支援

地方自治体の支援に希望することで、最も多くあげられたのは「移住先の住宅のリフォームなどに関する支援」60%である。住居の確保は移住にとって重要な要素であるが、空き家を改修するのに多くの費用が必要であり「移住するのに思ったより費用がかかった」と回答する移住者が多かった。こうした住まいに関する支援が継続して求められている。また、移住先での仕事をみつけることも移住の重要な要素である。「若年移住者暮らし奨励金など生活支援」や「起業やその他就職に対する支援」「新しく農林水産業に携わるにあたっての研修などの支援」が次いであげられている。

図56　移住促進への自治体の支援希望



注）回答数 20
　　複数回答

「その他」に関する回答

・長期滞在者にある程度の宿泊費用を補助してほしい。

・長く定住した時の助成、地域づくりワークショップ、空き家の調査。

14）受入協議会運営の問題点

受入協議会の運営上の問題点は、下表に示すとおりである。

地域の人口減少に対する地元住民の危機感や意識の低いことが指摘されている。このため受入協議会での地元住民の活動が特定の人物（協議会代表者、役員や役場 OB 等）に限られていたり、行政に頼りきりになっているケースも多くみられた。

また、移住推進市町村に対して行った面接調査の結果、受入協議会が設置されていてもその活動のほとんどを行政の相談窓口であるワンストップパーソンが行っていることが多かった。多くの協議会組織は区長会等の地元住民を中心とした組織であるが、その活動は形骸化しており、協議会自体が移住者を受け入れる様々な相談に対応できていない場合があることも判明した。その結果、役場担当職員の負担が大きくなり、アンケートでは「人手不足」「ワンストップパーソンの仕事の明確化」「専従職員の確保」等の記述が目立つ。役場担当者は数年担当すれば人事異動などで交代するのが普通である。こうした状態が続くと移住者受入の相談活動の停滞も危惧される。

これから先の移住者受入に関して、地元住民と行政の連携のあり方について再度検討することが必要であるといえる。

先進地域からは、受入協議会同士の連繋を図りより良い協議会運営のあり方を模索していこうとの提案もなされている。早い機会にこうした取り組みが実現することが期待される。

紀美野町	人手が足りない。
かつらぎ町（新城地区）	地区の人達に問題意識を持ってもらえていない。限られた人の活動になっている。
かつらぎ町（四郷地区）	人手が足りない。案内、相談など移住に結びつくまで時間がかかる。
かつらぎ町（天野地区）	人手が足りない。
高野町	人手が足りない。金も足りない。
湯浅町	会員おのおのが仕事を持っているため集まりがわるい。
有田川町	元々あったボランティア組織をそのまま移行したので今ひとつ盛り上がりに欠ける。
日高川町	受入協議会とワンストップパーソンの仕事を明確化しながら、事務局の負担を減らしたい。
田辺市	市街地を除くとはいえ、広い地域を少ない協議会委員で対応しているため、組織として無理がある。逆に事務局になっている行政の負担が大きい。
白浜町	高齢化、資金繰り。
すさみ町	人手不足。
那智勝浦町	受入協議会同士の連繋の場が少なく総体的に沈滞化している。お互いに刺激しあいより良い運営のあり方を模索しあえる流れを作るためにも**「中間支援組織」**の立ち上げが早急に必要と考えている。
古座川町	地域が危機感を持って地域自身も定住に取り組んでいこうという意識が低い。（行政に頼りきりになっている。）
串本町	専従職員の確保。

15) 移住・定住促進などについての意見

田辺市	田辺市では全域を一つの協議会で対応しているが、空き家の掘り起こしや遊休農地の活用を今以上に進めるには、地元の口利きや情報があると大いに進みやすいため、受入協議会の在り方としては、集落(自治会)単位がベストであると考える。(コンパクトな協議会)よって、同じ市町村内に複数の受入協議会ができたとしても、個々に活動補助金を出せる仕組みを考えていただきたい。
古座川町	定住に関する特区を作り、農用地区域の除外申請や農地転用の基準を緩和することはできないでしょうか。
那智勝浦町	移住・定住促進を図るうえで最も重要な点は地域側が本気でそれを望んでいるのかという部分。まず地域が自分たちの地域の「これから」をしっかりと描こうとすることが何より肝腎。

食農総合研究所研究成果　第１号
2017 年 3 月　発行
著作者　辻和良・植田淳子・藤田武弘
発行所　和歌山大学食農総合研究所
〒640-8510　和歌山県和歌山市栄谷 930
TEL.（073)457-7126
印刷所　中和印刷紙器株式会社
〒640-8225　和歌山県和歌山市久保丁 4 丁目 53
TEL.（073)431-4411